平安京左京三条三坊四町
烏丸御池遺跡

―町頭町の調査―

２０１８年

古代文化調査会

例　言

1．本書は、古代文化調査会が京都市中京区町頭町101-1、101-2、105番地においてホテル建設に伴い実施した平安京跡・烏丸御池遺跡（文化財保護課番号17H026）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査（17SISA）は、壽商事株式会社より委託を受けた古代文化調査会の小松武彦が担当した。

3．調査にあたっては、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導を受けた。

4．本書の編集・執筆は小松武彦がおこなった。

5．図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は小松がおこない、遺物の実測は水谷明子が担当した。

6．本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系Ⅵによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.（東京湾平均海面高度）である。

7．本書で使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の1（京都東北部）、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（壬生・三条）を調整し、使用した。

8．土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。

9．遺物番号は実測図・写真ともに共通している。

10．発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

赤松佳奈　石田能富子　馬瀬智光　奥井智子　梶川敏夫　熊井亮介　熊谷舞子
黒須亜希子　鈴木久史　清水早織　新田和央　福島正調　宮原健吾
(株)明輝建設　(株)真興　(公財)京都市埋蔵文化財研究所　壽商事株式会社
MULプロパティ株式会社(株)　大和ハウス工業株式会社

本　文　目　次

平安京左京三条三坊四町・烏丸御池遺跡

Ⅰ　調査の経緯 …… 1

Ⅱ　調査の経過 …… 1

Ⅲ　遺　　構 …… 4

Ⅳ　遺　　物 ……19

Ⅴ　ま　と　め ……31

図　版　目　次

図版１　遺跡　１　第１面全景（北西から）
　　２　第２面全景（北西から）
図版２　遺跡　１　第３面全景（北西から）
　　２　第４面全景（北西から）
図版３　遺跡　１　石列１・路面73・溝77（西から）
　　２　瓦組99（西から）
図版４　遺跡　１　地下室127（南東から）
　　２　石組128（西から）
　　３　地下室127東石（東から）
　　４　石組130（西から）
　　５　石室135（北から）
図版５　遺跡　１　地下室160（東から）
　　２　地下室163（北から）
図版６　遺跡　１　井戸239（南から）
　　２　井戸365（東から）
　　３　井戸239断面（南から）
　　４　溝287南壁断面（北から）

5　柱穴列１（北から）
6　溝287（北から）
図版７　遺物　土壙26・50・井戸38・石列３出土遺物
図版８　遺物　土壙27・93・98・137・109出土遺物
図版９　遺物　土壙109・地下室127・163・第４面掘下げ出土遺物
図版10　遺物　第４面掘下げ・溝287・土壙380・第４面遺構検出・ピット289出土遺物
図版11　遺物　瓦組99・土壙109・第２面掘下げ・石組130・第１面精査中出土遺物
図版12　遺物　地下室163・路面73・石室130・溝166・地下室163出土遺物

挿　図　目　次

図１　調査地点位置図……1
図２　調査地位置図……2
図３　平安京条坊と調査地位置図……2
図４　四行八門と調査位置関係図……2
図５　調査区地区割図……3
図６　南壁実測図……5
図７　第１面実測図……6
図８　石室９実測図……7
図９　瓦組99実測図……7
図10　石列１～３・路面73・溝77実測図……8
図11　第２面実測図……9
図12　地下室127実測図……10
図13　石組128実測図……11
図14　石組130実測図……11
図15　石室135実測図……11
図16　第３面実測図……12
図17　地下室160実測図……13
図18　地下室163実測図……14
図19　第４面実測図……15
図20　井戸239・365実測図……16
図21　溝287実測図……17
図22　柱穴列１実測図……17
図23　土壙26出土土器写真・実測図……19
図24　土壙50出土土器実側図……19

図25　井戸38出土土器実測図……20
図26　石列３・土壙27出土土器実測図……20
図27　土壙93・98出土土器実測図……21
図28　土壙137出土土器実測図……22
図29　土壙109出土土器実測図……22
図30　石室135出土土器実測図……22
図31　地下室127出土土器実測図……23
図32　地下室163出土土器実測図……23
図33　第４面掘下げ出土土器実測図……24
図34　溝287出土土器実測図……24
図35　土壙380出土土器実測図……25
図36　第４面遺構検出・ピット289出土土器実測図……25
図37　軒瓦拓影・実測図……26
図38　塼・平瓦拓影・実測図……27
図39　銭貨拓影図……28
図40　石製品実測図……29
図41　等高線と既調査地点図……32
図42　戦国期の下京と既調査地点図……32

表　目　次

表１　遺構概要表……４
表２　銭貨一覧表……28
表３　遺物概要表……30
表４　調査地の現表土・地山の標高値一覧表……31

平安京左京三条三坊四町
烏丸御池遺跡

Ⅰ　調査の経緯

調査地は京都市中京区町頭町101-1、101-2、105番地である。当地は平安京左京三条三坊四町・烏丸御池遺跡に該当し、町尻小路西築地にも当っている。この地にMULプロパティ株式会社によるホテル建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下は保護課）が試掘調査を実施した。その結果、平安時代から江戸時代の遺構が遺存していることが確認されたため発掘調査が必要となり、保護課の指導の下、施主との協議によって、古代文化調査会が発掘調査をおこなうことになった。

Ⅱ　調査の経過

[註1]平安時代の四町は太政大臣藤原頼忠の三条殿、白河法皇の近臣藤原顕隆の三条西院の推定地である。中世は酒屋・魚座などの商家が建ち並び繁栄した。しかし、応仁の乱（1467～1477年）に

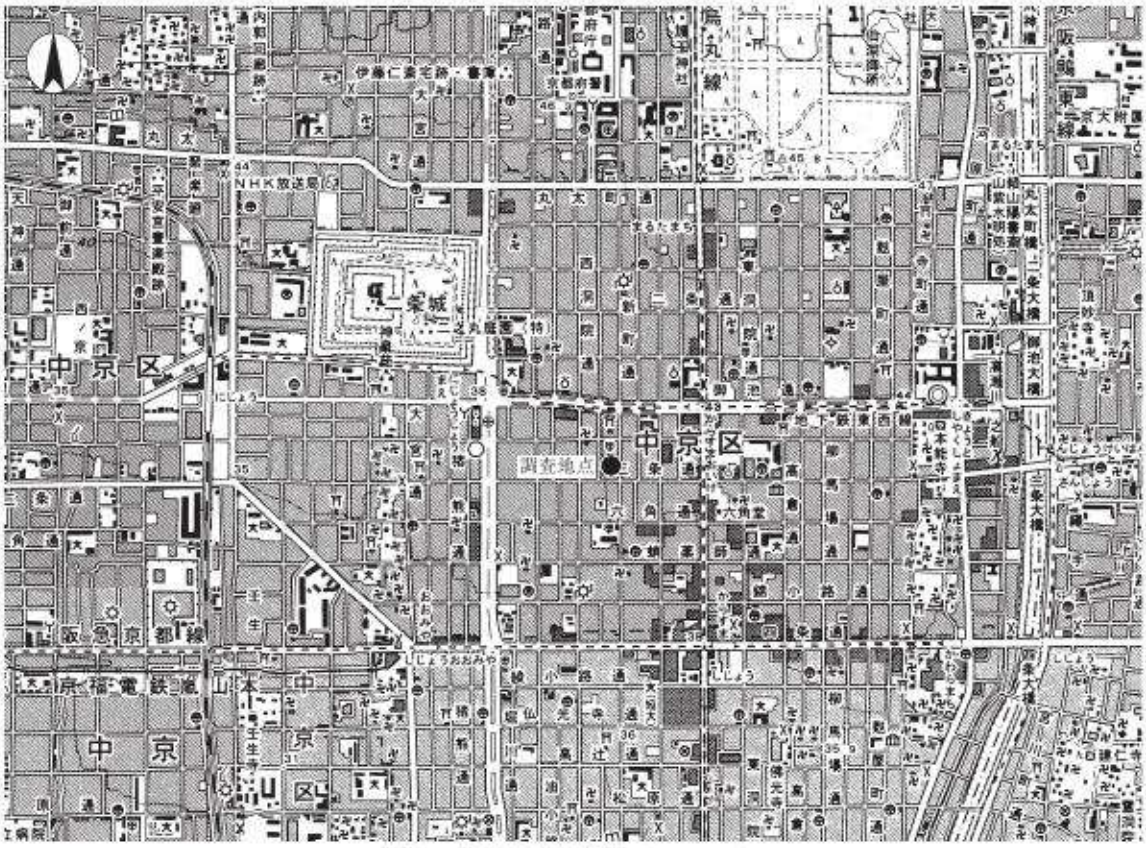


図１　調査地点位置図（1/25,000）

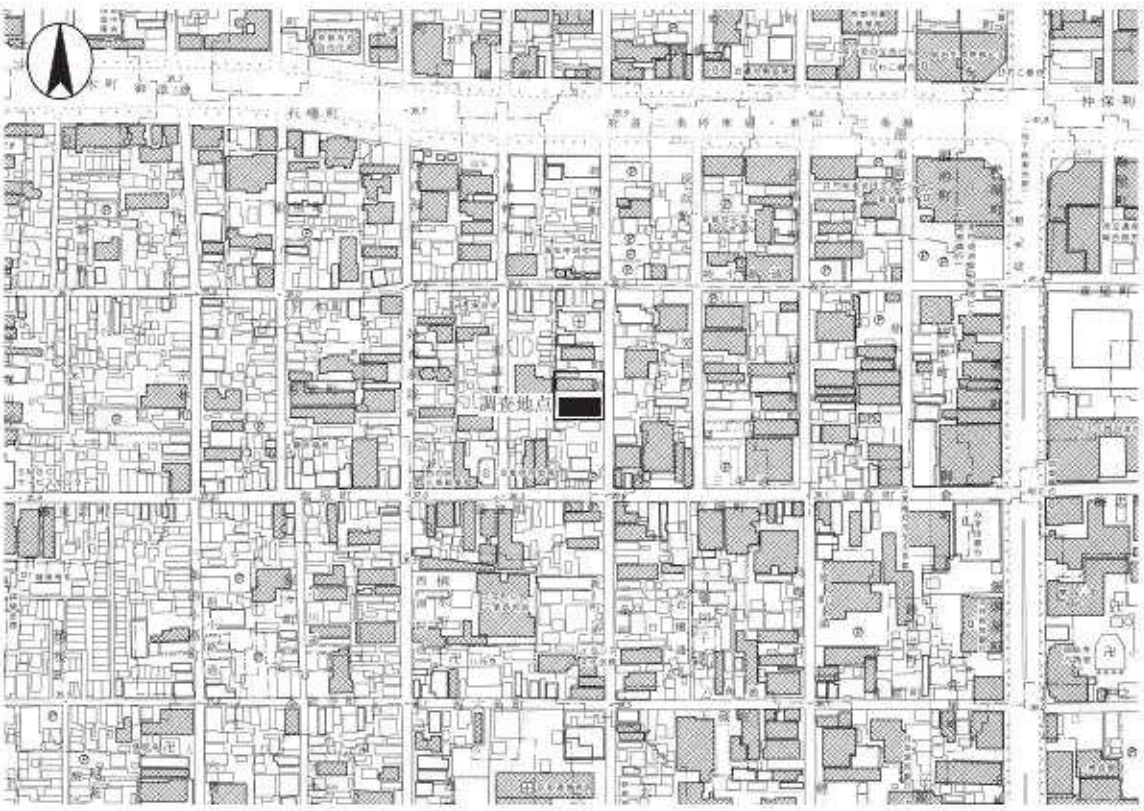


図２　調査地位置図（1/5,000）

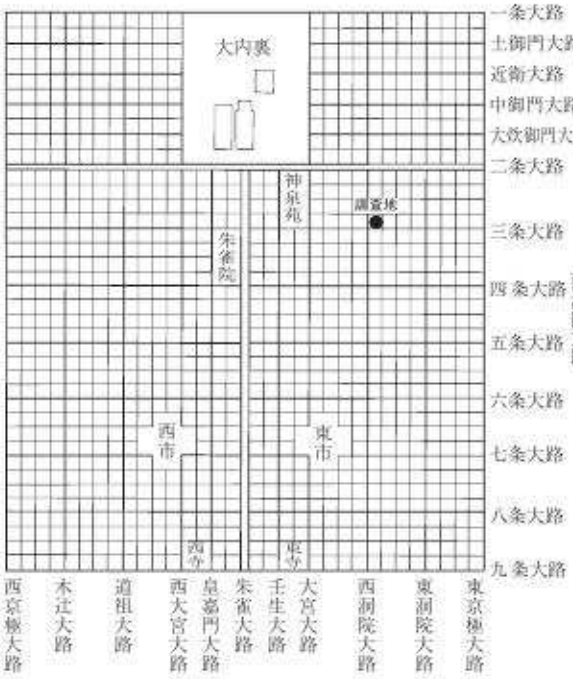


図３　平安京条坊と調査地位置図

図４　四行八門と調査位置関係図（1/2,000）

よって荒廃したが、その後すぐに復興する。近世は織田信長の「旧二条城」築城や豊臣秀吉による都市改造によって、町尻小路に多くの新しい建物が建てられたことから「新町通」と呼ばれ、現在に至っている。烏丸御池遺跡は弥生時代から古墳時代の遺跡である。

調査した遺構面は第４面まであり、第１面が江戸時代前期から江戸時代後期、第２面が室町時代から桃山時代、第３面が鎌倉時代から室町時代前半、第４面が平安時代中期から平安時代後期である。調査は平成29年８月１日から平成29年10月20日まで実施した。

調査の方法は、（公財）京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系Ⅵによる４ｍメッシュのグリッドを基に調査区の北東角を原点（X=－109,892　Y=-22,220）として、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットの記号を付し、遺構・遺物の記録をとる方法でおこなった。

同研究所の平安京条坊モデル60の左京三条三坊四町の築地四隅の座標値は以下の通りである。

北西	X=-109,830.59m	北東	X=-109,830.10m
	Y= -22,338.73m		Y= -22,219.35m
南西	X=-109,949.98m	南東	X=-109,949.49m
	Y= -22,338.25m		Y= -22,218.86m

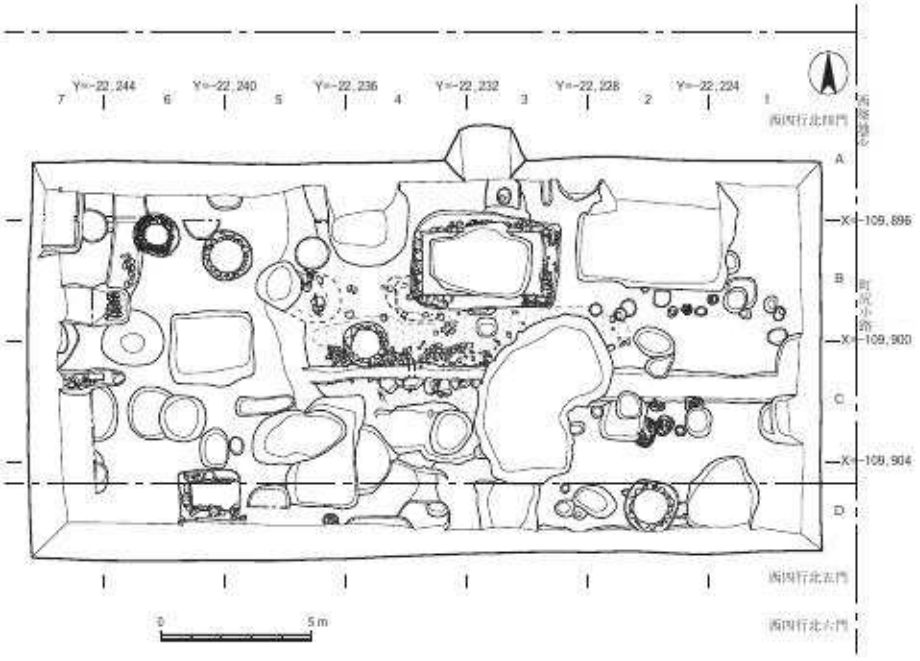


図５　調査区地区割図（1/250）

Ⅲ 遺　　構

調査地の現表土は標高40.2～40.6mでやや西側が高くなっているが西隣りの突抜町側の敷地とは約1.5mの段差がある。

調査地の層序は南壁（図６）では地表下約1.2mまでが近現代から江戸時代中期頃の盛土及び遺構面、1.2～1.7mまでは第１面の江戸時代前期の整地層（26・31層）である。1.7～2.9mまでは第２面の室町時代から桃山時代の整地層（47・48・73・89層）である。2.0～3.5mまでは鎌倉時代から室町時代前半の整地層（49～52・57・58・64層）である。2.3～3.9mまでは第４面の平安時代後期の整地層（59・60・63・66～68・87層）である。以下が地山の黄褐色粘土（104層）で下層には灰色粘土、細砂混（105層）、オリーブ黒色粘土（106層）となる。

第１面（江戸時代前期～後期）（図版１・３、図７～10）

江戸時代後期の遺構は蔵３・室６・石室９・石組29・井戸31・39、中期の遺構は土壙26、前期の遺構は井戸38・土壙27・93・98・路面73・溝77・瓦組99などである。

蔵３　調査区北西隅で南東角を検出した。幅1.2m、深さは2.3mである。埋土は互層堆積で底には10cm大の石が埋められていた。江戸時代後期の遺物が出土した。

室６　調査区東の北壁際で検出した。東西4.9m、南北2.9m、深さ1.6mである。埋土は多量の焼土層と焼瓦である。江戸時代後期である。

石室９（図８）　調査区北寄り中央で検出した。東西4.8m、南北2.9mで方形の石組である。深さは検出面から0.6mである。撹乱を受けていたが３～４段程が残存していた。埋土は焼土・炭・焼瓦などが含まれていた。江戸時代後期の遺物が出土した。

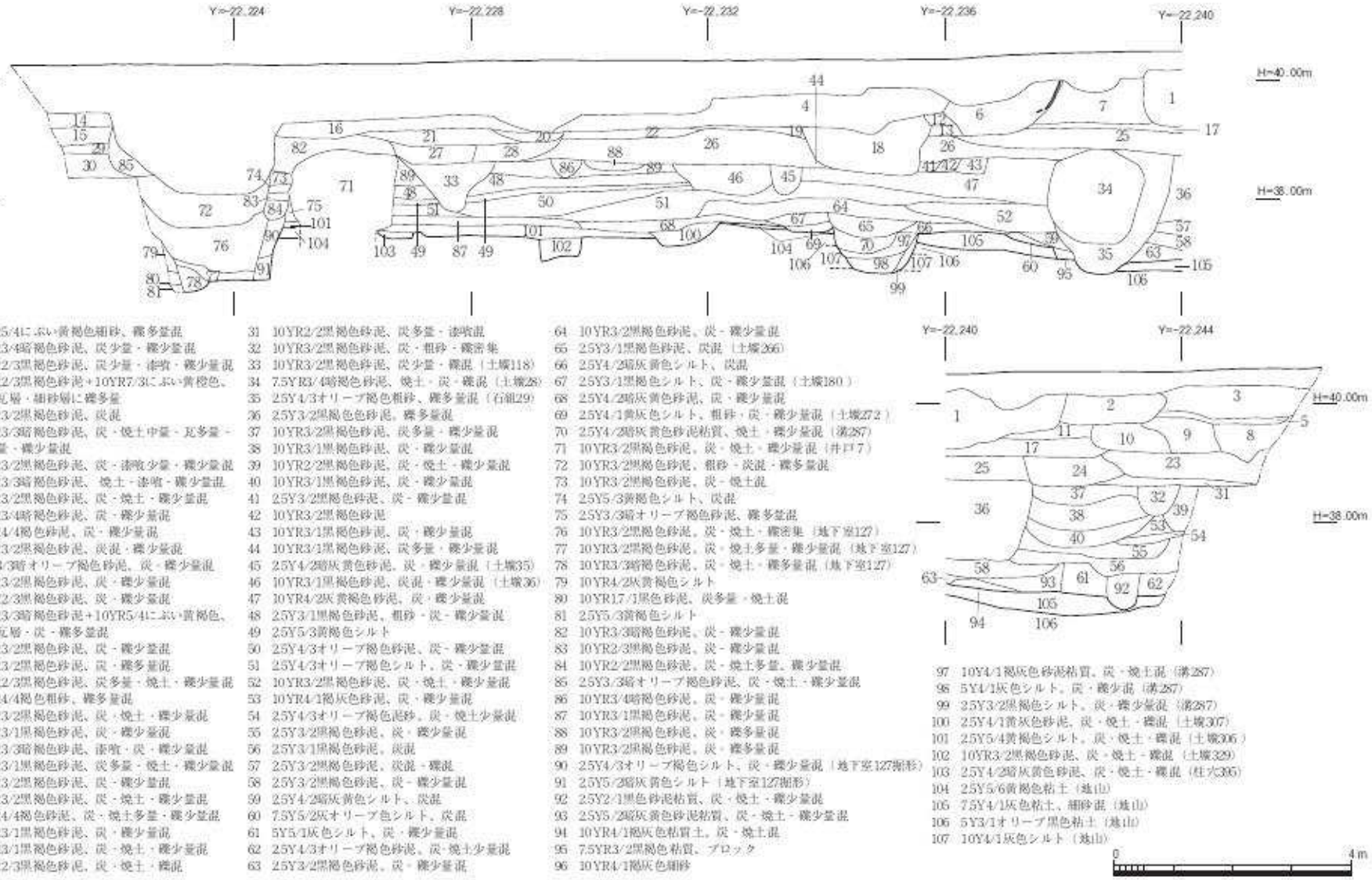
石組29　調査区南寄りの南壁際で検出した。東西2.0m以上、南北1.5m以上で方形の石組である。深さは検出面から0.9mである。埋土は黒褐色砂泥で江戸時代後期の遺物が出土した。

井戸31　調査区中央北寄りで検出した。直径1.1mの円形を呈し、素掘りで深さは1.5m以上である。江戸時代後期の遺物が出土した。

井戸39　調査区中央で検出した。直径1.4m、内径0.9mで円形の石組である。深さは1.5m以

表１　遺構概要表

時　代	遺　構	備　考
江戸時代前期～後期（第１面）	蔵３、室６、石室９、井戸31・38・39、石組29、路面73、溝77、瓦組99、土壙26・27・93・98	
室町時代～桃山時代（第２面）	地下室127、石組128・130、石室135、土壙109・116・137	
鎌倉時代～室町時代前半（第３面）	地下室160・163、井戸148、溝166	
平安時代中期～後期（第４面）	溝287、井戸239・365、柱穴列１、Pit289、土壙380	



1　10YR5/4にぶい黄褐色細砂、礫多量混
2　10YR3/4暗褐色砂泥、炭少量・礫少量混
3　10YR2/3黒褐色砂泥、炭少量・赤焼・礫少量混
4　10YR2/3黒褐色砂泥+10YR7/3にぶい黄橙色、細砂の瓦層・細砂層に礫多量
5　10YR3/2黒褐色砂泥、炭混
6　10YR3/3暗褐色砂泥、炭・焼土中量・瓦多量・赤焼少量・礫少量混
7　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・赤焼少量・礫少量混
8　10YR3/3暗褐色砂泥、焼土・赤焼・礫少量混
9　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
10　10YR3/4暗褐色砂泥、炭・礫少量混
11　10YR4/4褐色砂泥、炭・礫少量混
12　10YR3/2黒褐色砂泥、炭混・礫少量混
13　25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、炭・礫少量混
14　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
15　10YR2/3黒褐色砂泥、炭・礫少量混
16　10YR3/3暗褐色砂泥+10YR5/4にぶい黄褐色、粗砂の瓦層・炭・礫多量混
17　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
18　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫多量混
19　10YR2/3黒褐色砂泥、炭多量・焼土・礫少量混
20　10YR4/4褐色粗砂、礫多量混
21　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
22　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
23　10YR3/3暗褐色砂泥、赤焼・炭・礫少量混
24　10YR3/1黒褐色砂泥、炭多量・焼土・礫少量混
25　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
26　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
27　10YR4/4褐色砂泥、炭・焼土多量・礫少量混
28　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
29　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
30　10YR2/3黒褐色砂泥、炭・焼土・礫混
31　10YR2/2黒褐色砂泥、炭多量・赤焼混
32　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・粗砂・礫密集
33　10YR3/2黒褐色砂泥、炭少量・礫混（土壙118）
34　7.5YR3/4暗褐色砂泥、焼土・炭・礫混（土壙28）
35　2.5Y4/3オリーブ褐色粗砂、礫多量混（石組29）
36　2.5Y3/2黒褐色色砂泥、礫多量混
37　10YR3/2黒褐色砂泥、炭多量・礫少量混
38　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
39　10YR2/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
40　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
41　2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
42　10YR3/2黒褐色砂泥
43　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
44　10YR3/1黒褐色砂泥、炭多量・礫少量混
45　2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、炭・礫少量混（土壙35）
46　10YR3/1黒褐色砂泥、炭混・礫少量混（土壙36）
47　10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭・礫少量混
48　2.5Y3/1黒褐色砂泥、粗砂・炭・礫少量混
49　2.5Y5/3黄褐色シルト
50　2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、炭・礫少量混
51　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト、炭・礫少量混
52　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
53　10YR4/1褐灰色砂泥、炭・礫少量混
54　2.5Y4/3オリーブ褐色泥砂、炭・焼土少量混
55　2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
56　2.5Y3/1黒褐色砂泥、炭混
57　2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭混・礫混
58　2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
59　2.5Y4/2暗灰黄色シルト、炭混
60　7.5Y5/2灰オリーブ色シルト、炭混
61　5Y5/1灰色シルト、炭・礫少量混
62　2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、炭・焼土少量混
63　2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
64　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫少量混
65　2.5Y3/1黒褐色砂泥、炭混（土壙266）
66　2.5Y4/2暗灰黄色シルト、炭混
67　2.5Y3/1黒褐色シルト、炭・礫少量混（土壙180）
68　2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、炭・礫少量混
69　2.5Y4/1黄灰色シルト、粗砂・炭・礫少量混（土壙272）
70　2.5Y4/2暗灰黄色砂泥粘質、焼土・礫少量混（溝287）
71　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混（井戸7）
72　10YR3/2黒褐色砂泥、粗砂・炭混・礫多量混
73　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土混
74　2.5Y5/3黄褐色シルト、炭混
75　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、礫多量混
76　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫密集（地下室127）
77　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土多量・礫少量混（地下室127）
78　10YR3/3暗褐色砂泥、炭・焼土・礫多量混（地下室127）
79　10YR4/2灰黄褐色シルト
80　10YR17/1黒色砂泥、炭多量・焼土混
81　2.5Y5/3黄褐色シルト
82　10YR3/3暗褐色砂泥、炭・礫少量混
83　10YR2/3黒褐色砂泥、炭・礫少量混
84　10YR2/2黒褐色砂泥、炭・焼土多量、礫少量混
85　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、炭・焼土・礫少量混
86　10YR3/4暗褐色砂泥、炭・礫少量混
87　10YR3/1黒褐色砂泥、炭・礫少量混
88　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫多量混
89　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・礫多量混
90　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト、炭・礫少量混（地下室127掘形）
91　2.5Y5/2暗灰黄色シルト（地下室127掘形）
92　2.5Y2/1黒色砂泥粘質、炭・焼土・礫少量混
93　2.5Y5/2暗灰黄色砂泥粘質、炭・焼土・礫少量混
94　10YR4/1褐灰色粘質土、炭・焼土混
95　7.5YR3/2黒褐色粘質、ブロック
96　10YR4/1褐灰色細砂
97　10Y4/1褐灰色砂泥粘質、炭・焼土混（溝287）
98　5Y4/1灰色シルト、炭・礫少混（溝287）
99　2.5Y3/2黒褐色シルト、炭・礫少量混（溝287）
100　2.5Y4/1黄灰色砂泥、炭・焼土・礫混（土壙307）
101　2.5Y5/4黄褐色シルト、炭・焼土・礫混（土壙305）
102　10YR3/2黒褐色砂泥、炭・焼土・礫混（土壙329）
103　2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、炭・焼土・礫混（柱穴305）
104　2.5Y5/6黄褐色粘土（地山）
105　7.5Y4/1灰色粘土、細砂混（地山）
106　5Y3/1オリーブ黒色粘土（地山）
107　10Y4/1灰色シルト（地山）

図6　南壁実測図（1/100）

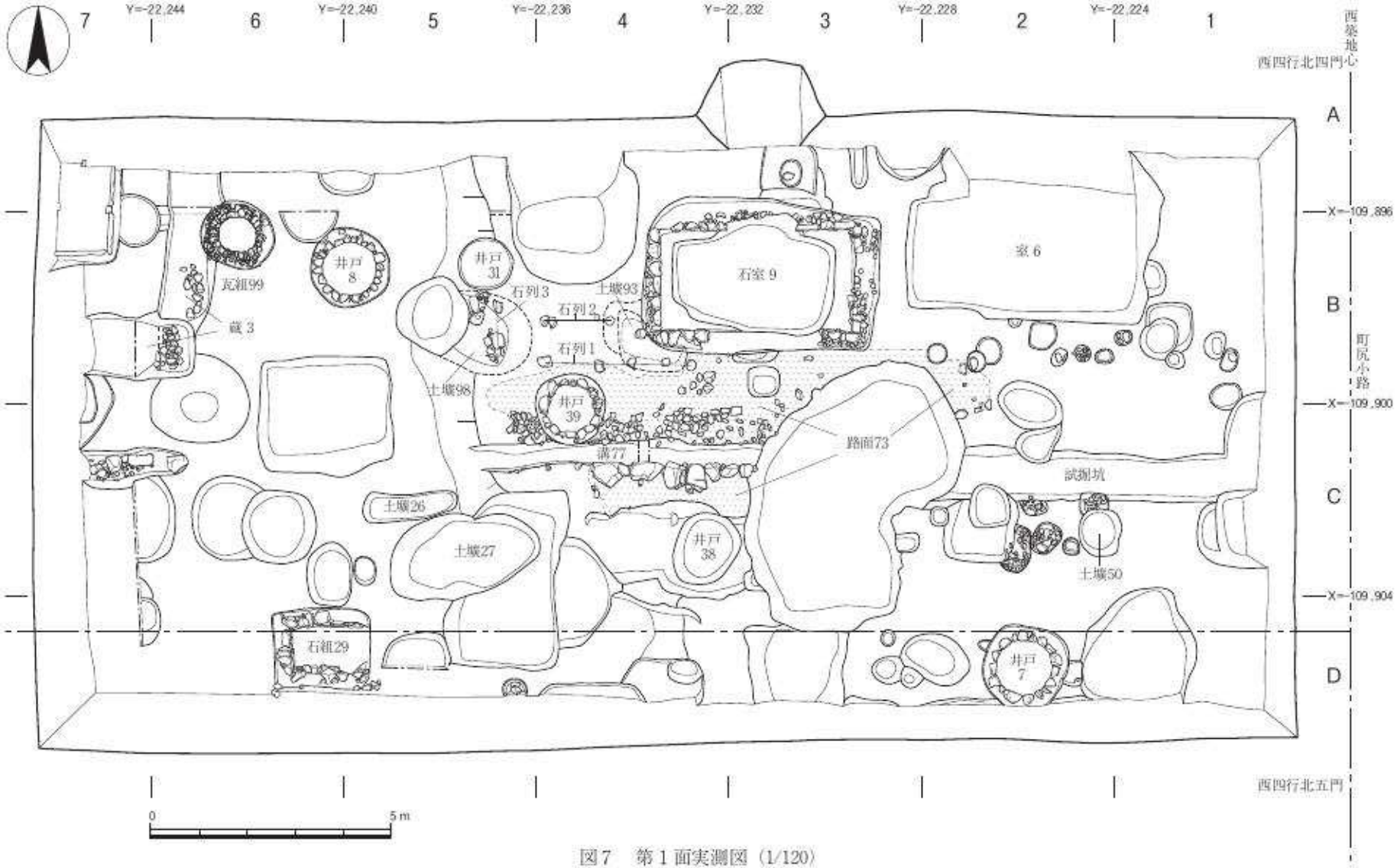


図7　第1面実測図（1/120）

上である。埋土はにぶい黄褐色砂泥で江戸時代後期の遺物が出土した。

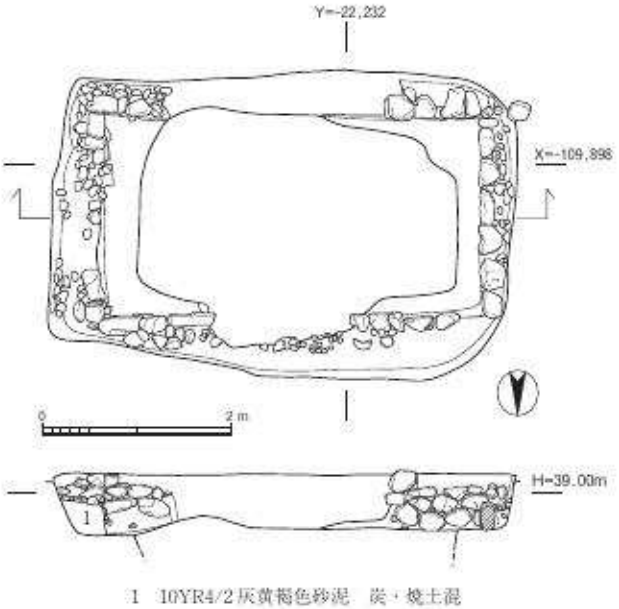
土壙26　調査区南寄りで検出した。東西1.9m、南北0.5mの長方形を呈し、深さは検出面から1.3mである。埋土は暗オリーブ褐色砂泥で江戸時代中期の遺物が出土した。

土壙27　調査区南西寄りで検出した。東西3.0m、南北1.6mの楕円形を呈し、深さ0.5mである。埋土は暗褐黄色砂泥で江戸時代前期の遺物が出土した。

土壙93　石室９の南西側で検出した。長軸が1.0m以上の不定形な遺構で深さは0.4mである。埋土は褐色砂泥で江戸時代前期の遺物が出土した。

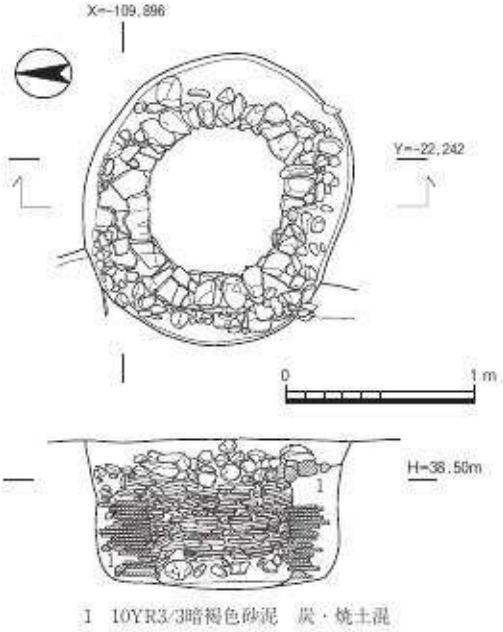
土壙98　調査区中央で検出した。直径1.5m以上で西辺は撹乱を受けているが楕円形を呈する。深さは0.5mで埋土は黒色砂泥で江戸時代前期の遺物が出土した。

井戸38　調査区中央南で検出した。直径1.5mの楕円形を呈し、深さは1.0m以上で素掘りである。埋土は暗褐色砂泥で江戸時代前期の遺物が出土した。



1　10YR4/2灰黄褐色砂泥　炭・焼土混

図８　石室９実測図（1/80）



1　10YR3/3暗褐色砂泥　炭・焼土混

図９　瓦組99実測図（1/40）

瓦組99（図版３の２、図９）　調査区西北で検出した。直径1.3～1.4m、内径0.7～0.75mの楕円形を呈し、上段と下段は石組みで中段は瓦組みの遺構である。深さは検出面から0.8mである。瓦は丸瓦、平瓦と聚楽第周辺の大名屋敷から出土する金箔瓦と同じ軒平瓦で組まれていた。貯水施設と考えられる。江戸時代前期である。

石列１～３（図版３の１、図10）　調査区中央北よりの路面73北側で検出した。石列１は0.2～0.4m大の石が５石で東西方向に並ぶ、柱間不揃いである。石列２は石列１の１m北で0.2m大が２石が東西に並ぶ。柱間は1.2mである。石列３は石列１・２の１m西よりで南北方向に0.3～0.4m大の石が２石で柱間は0.7mである。石列１～３は建物の束石と考えられる。

路面７・溝77（図版３の１、図10）　路面73は調査区中央で溝77の北と南側で検出した。検出

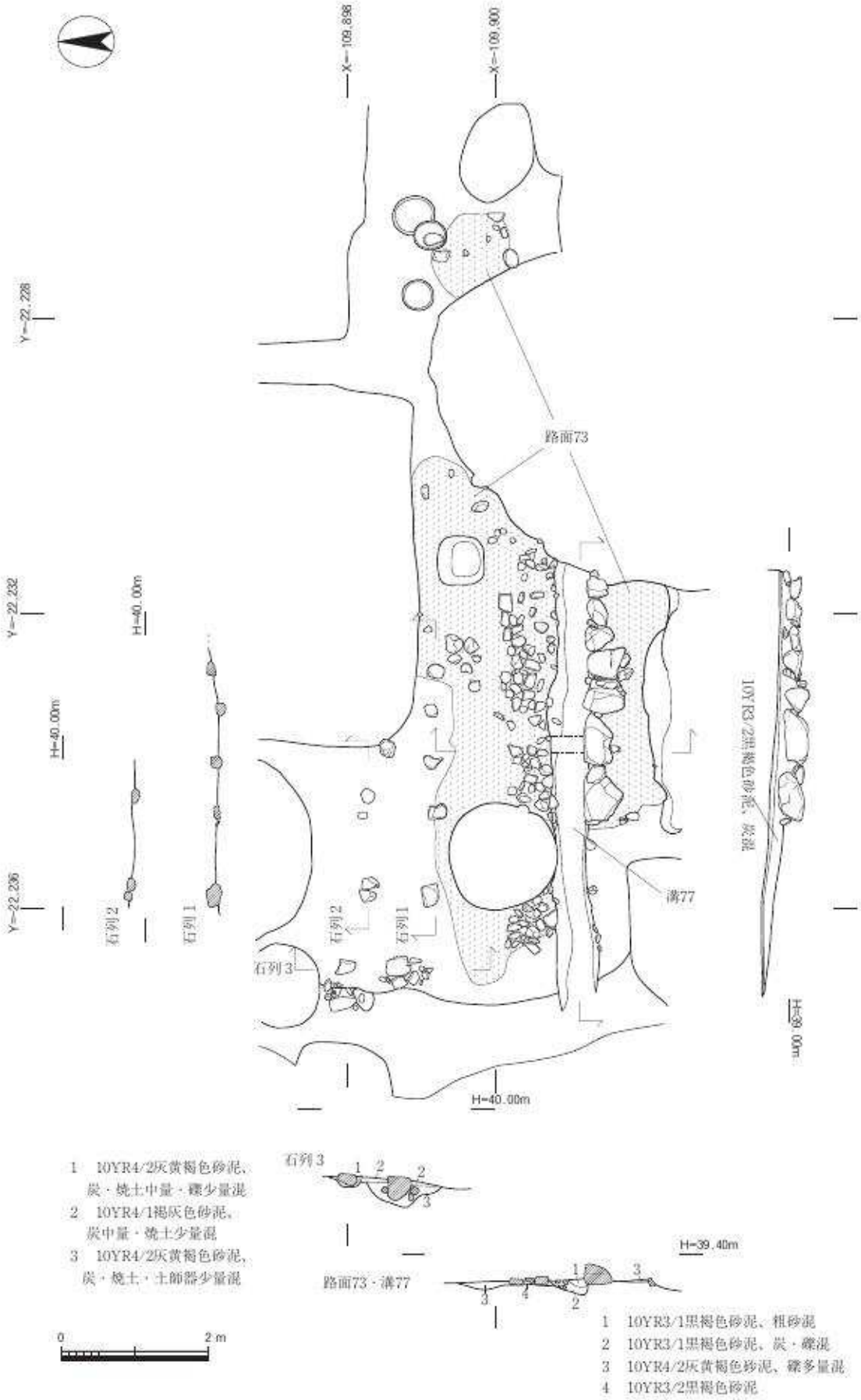


図10　石列１～３・路面73・溝77実測図（1/80）

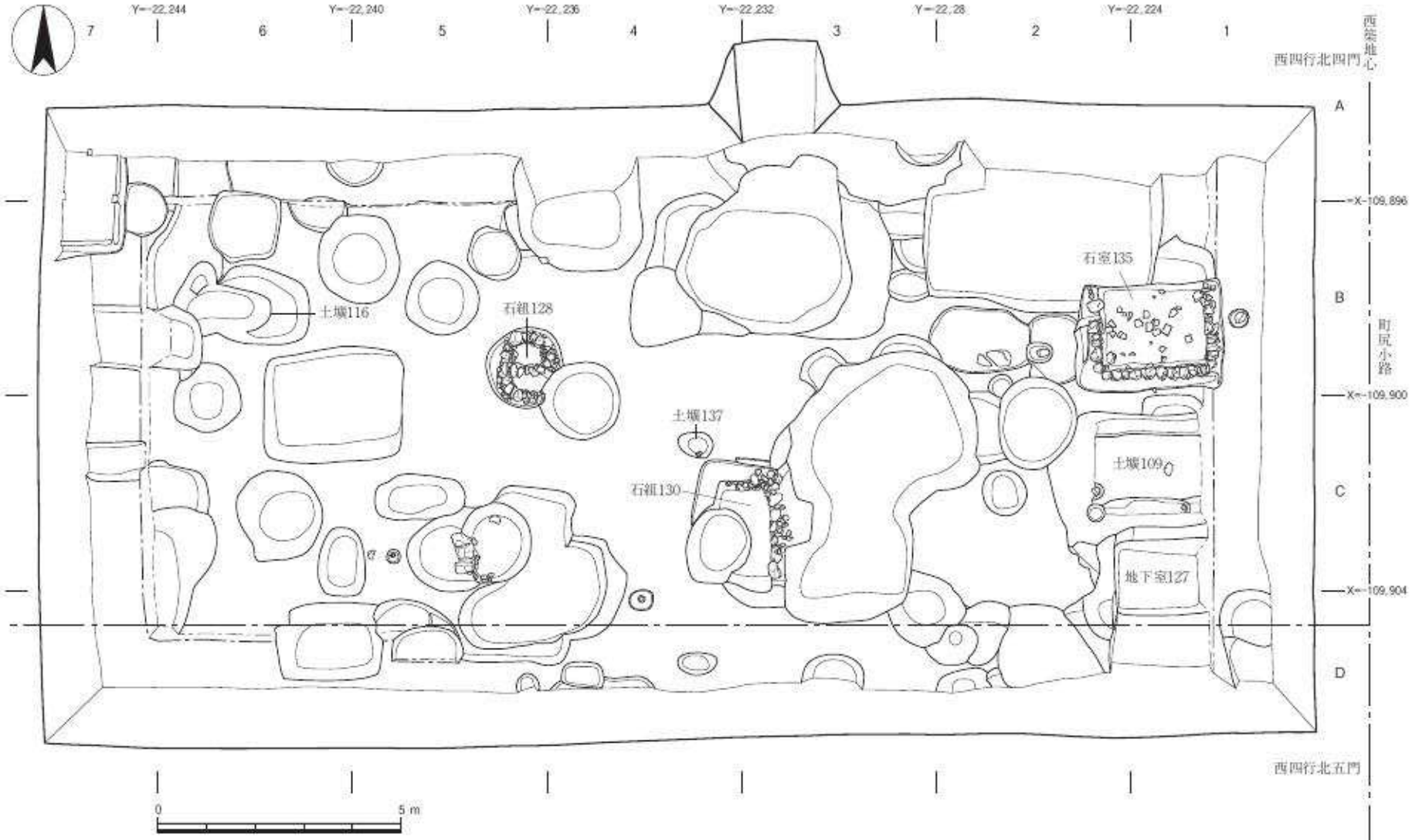


図11　第２面実測図（1/120）

長は東西方向に約10m、南北約3.8mで西側へ傾斜している。溝77の北肩部は0.1～0.2m大の石を平坦に0.8m幅で石畳状に敷詰められていた。溝77は路面73のやや南よりで東西方向に検出した。検出長は約６m、幅0.3～0.5m、深さ0.2～0.3mで西へ傾斜し、溝の両際には護岸の杭が確認された。南肩には0.3～0.7m大の石が８石残存していた。路面と溝が傾斜していたことを推測すると西側が池の可能性があり、露地遺構と考えられる。路面73と溝77から江戸時代前期の遺物が出土した。

第２面（室町時代から桃山時代）（図版１・４、図11～15）

桃山時代の遺構は土壙116・137、室町時代の遺構は土壙109・地下室127・石組128・石組130・石室135などである。

土壙116　調査区西寄りで検出した。東西2.1m以上、南北1.5mの不定形で、深さは0.7mで２段に下る。埋土は灰黄褐色砂泥で坩堝が出土した。

土壙137　調査区中央で検出した。直径0.7mの楕円形を呈し、深さは0.4mである。埋土は黒褐色砂泥で桃山時代の大和の羽釜などが出土した。

土壙109　調査区東壁際の中央で検出した。東西2.9m以上、南北2.3m以上の方形を呈し、深

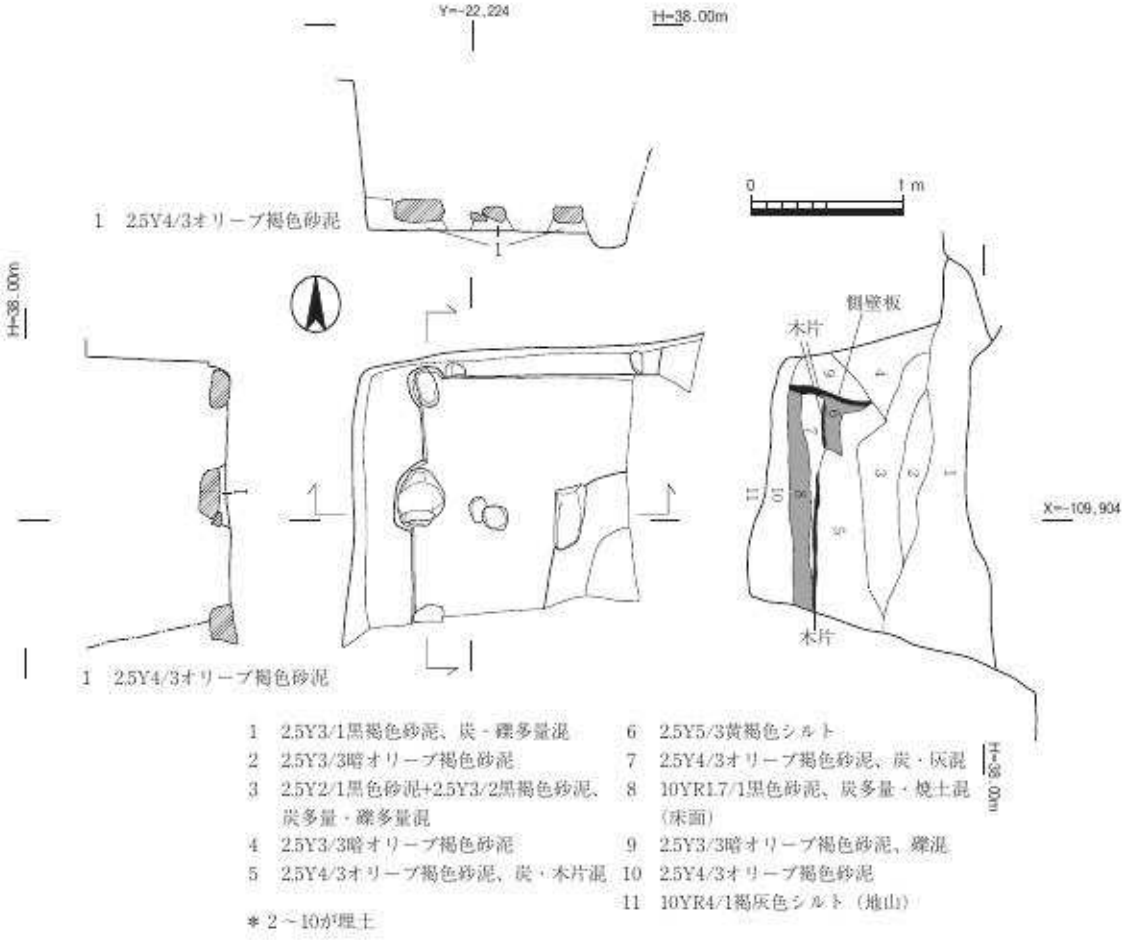


図12　地下室127実測図（1/50）

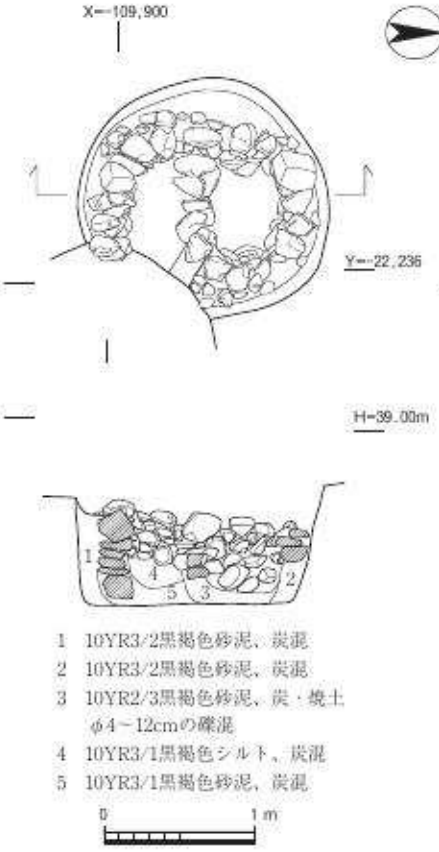


図13　石組128実測図（1/50）

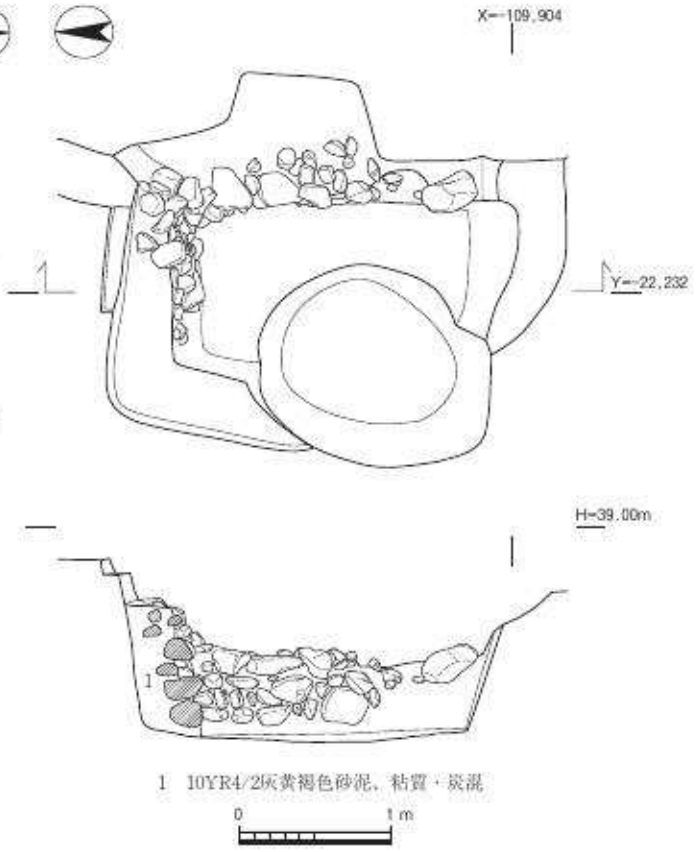


図14　石組130実測図（1/50）

さは検出面から1.2mである。埋土は黒褐色泥砂で室町時代中頃の遺物が出土した。

地下室127（図版４の１・３、図12）　調査区東南よりで検出した。東西2.1m以上、南北2.0m以上で方形を呈する。深さは検出面から1.6mである。側壁には火災で炭化していたが擁壁材の痕跡が確認された。裏込めは0.25m幅で暗オリーブ褐色シルトで、西辺の床底には南北２間、柱間0.8m、中央の東西には柱間1.0mに束石が据えられる。埋土は黒褐泥砂・炭で甕片などの遺物が出土した。

石組128（図版４の２、図13）　調

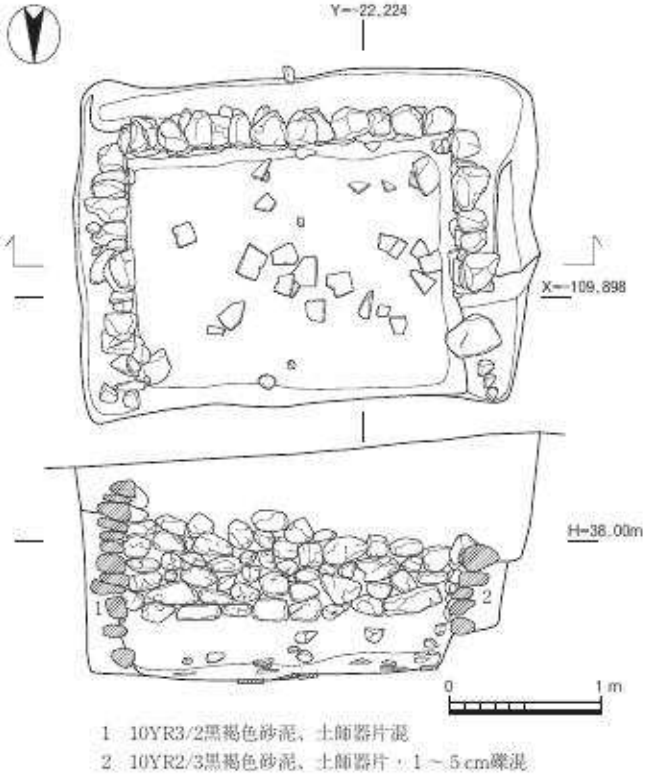


図15　石室135実測図（1/50）

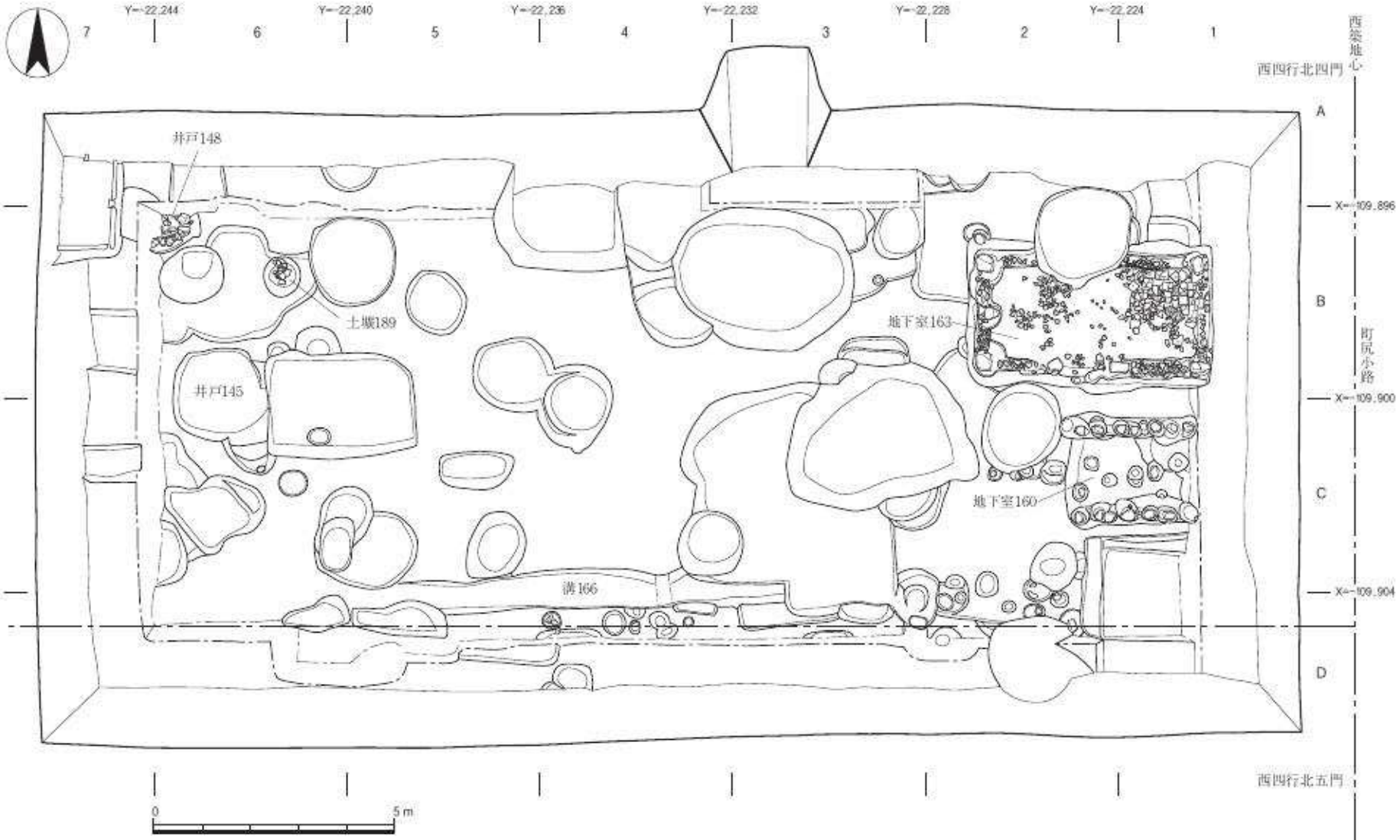


図16　第３面実測図（1/120）

査区中央で検出した。南北1.7m、東西1.6mの楕円形を呈した石組である。10～30cm大の河原石で２段に組まれていた。深さは検出面から１段0.4m、２段0.6mである。埋土は黒褐色砂泥で室町時代の遺物が出土した。

石組130（図版４の４、図14） 調査区中央南寄りで検出した。南北2.4m、東西2.2mで東辺と北辺の一部で石組は３～４段が残存するのみである。深さは検出面から1.2mの方形を呈する。埋土から室町時代後期の遺物が出土した。

石室135（図版４の５、図15） 調査区北東よりで検出した。東西3.0m、南北2.1m以で方形を呈し、深さは検出面から1.5mである。北辺の石組は撹乱を受けていたが、他は20～40cm大の河原石が３～６段が残存していた。埋土は黒褐色砂泥で室町時代中頃の遺物が出土した。

第３面（鎌倉時代～室町時代前半）（図版２の１・図版５の１・２、図16～18）

室町時代前半の遺構は井戸145・148、鎌倉時代の遺構は地下室160・163・溝166などがある。

井戸145 調査区の西壁際で検出した。直径1.9mの円形を呈した素掘りの井戸である。深さは検出面から1.6m以上である。埋土から室町時代前期の遺物が出土した。

井戸148 調査区の北西角で検出した。直径0.8m以上の石組井戸である。壁際のため詳細は不

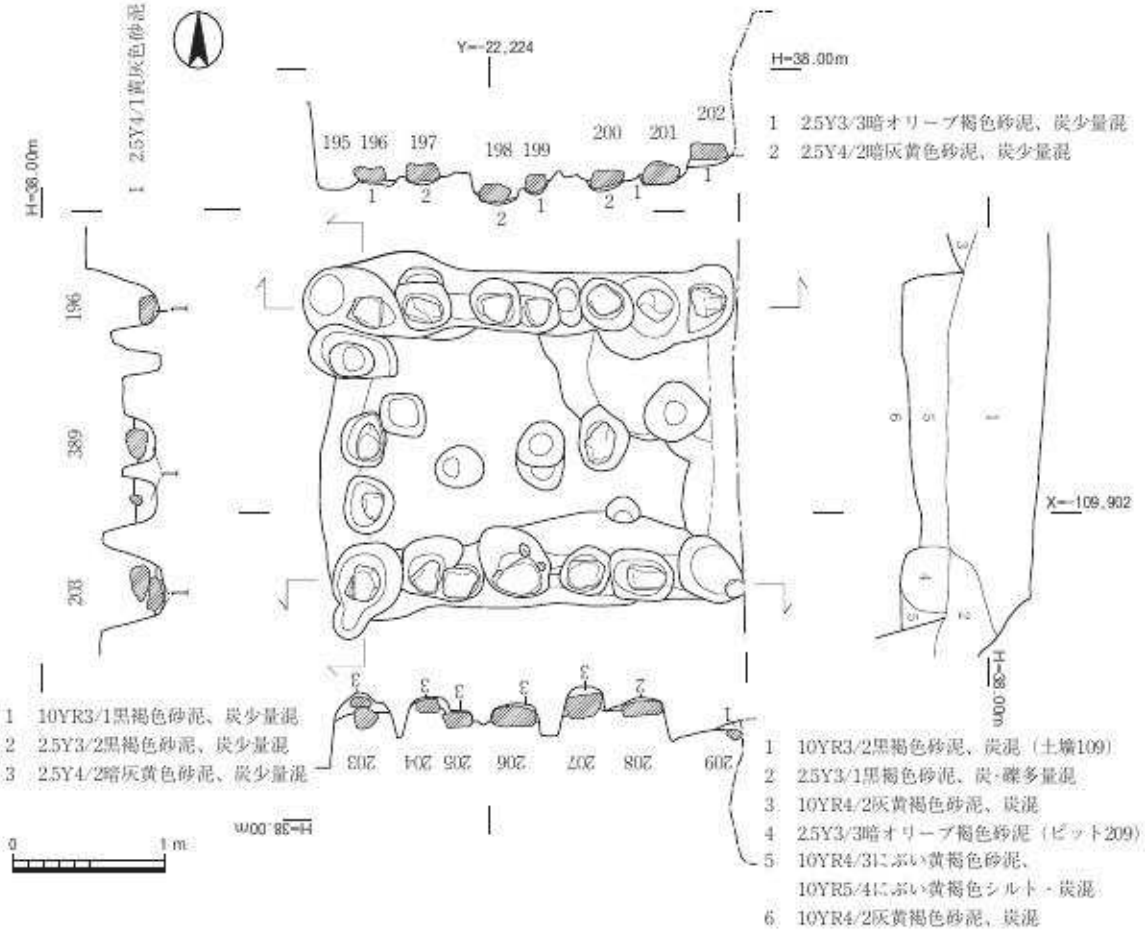
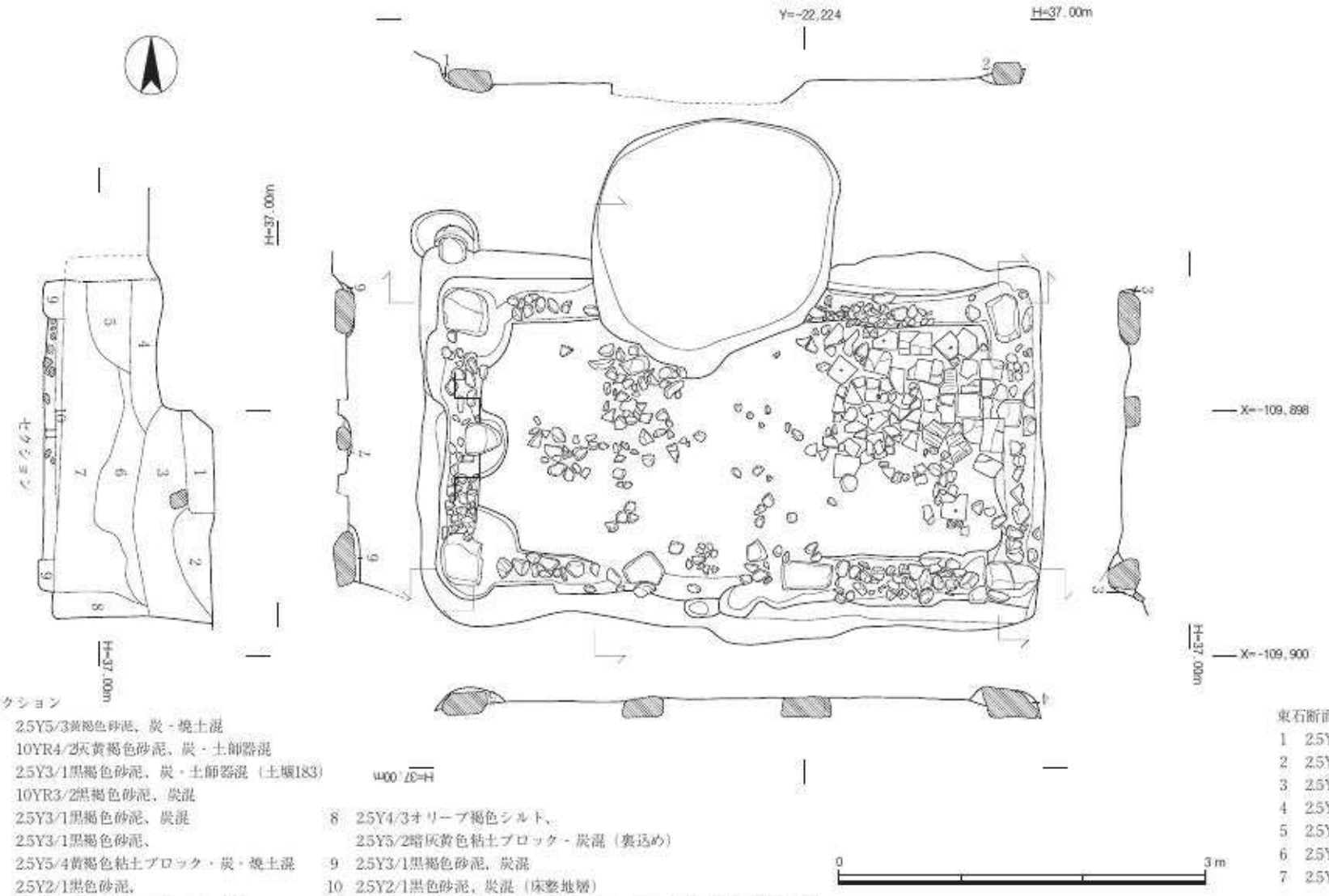


図17 地下室160実測図（1/50）



セクション

1　2.5Y5/3黄褐色砂泥、炭・焼土混
2　10YR4/2灰黄褐色砂泥、炭・土師器混
3　2.5Y3/1黒褐色砂泥、炭・土師器混（土壙183）
4　10YR3/2黒褐色砂泥、炭混
5　2.5Y3/1黒褐色砂泥、炭混
6　2.5Y3/1黒褐色砂泥、
　2.5Y5/4黄褐色粘土ブロック・炭・焼土混
7　2.5Y2/1黒色砂泥、
　2.5Y5/4黄褐色粘土ブロック・炭混
8　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト、
　2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック・炭混（裏込め）
9　2.5Y3/1黒褐色砂泥、炭混
10　2.5Y2/1黒色砂泥、炭混（床整地層）
11　2.5Y3/2黒褐色砂泥、礫混（床整地層）　＊6～11が地下室163堆積土

東石断面

1　2.5Y4/1黄灰色砂泥
2　2.5Y3/1黒褐色砂泥
3　2.5Y3/1黒褐色砂泥
4　2.5Y3/1黒褐色砂泥
5　2.5Y4/1黄灰色砂泥
6　2.5Y4/1黄灰色砂泥
7　2.5Y5/1黄灰色砂泥

図18　地下室163実測図（1/50）

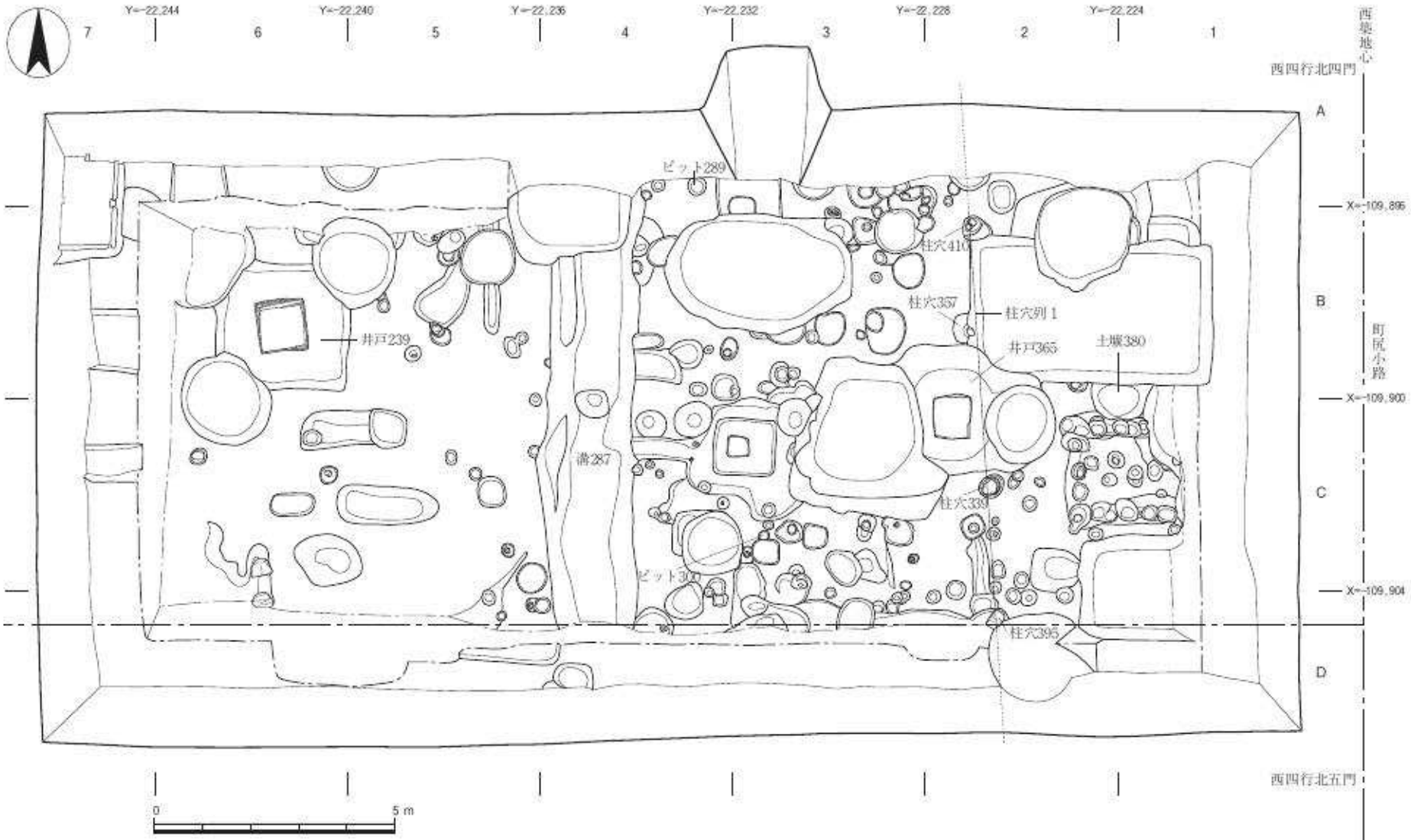
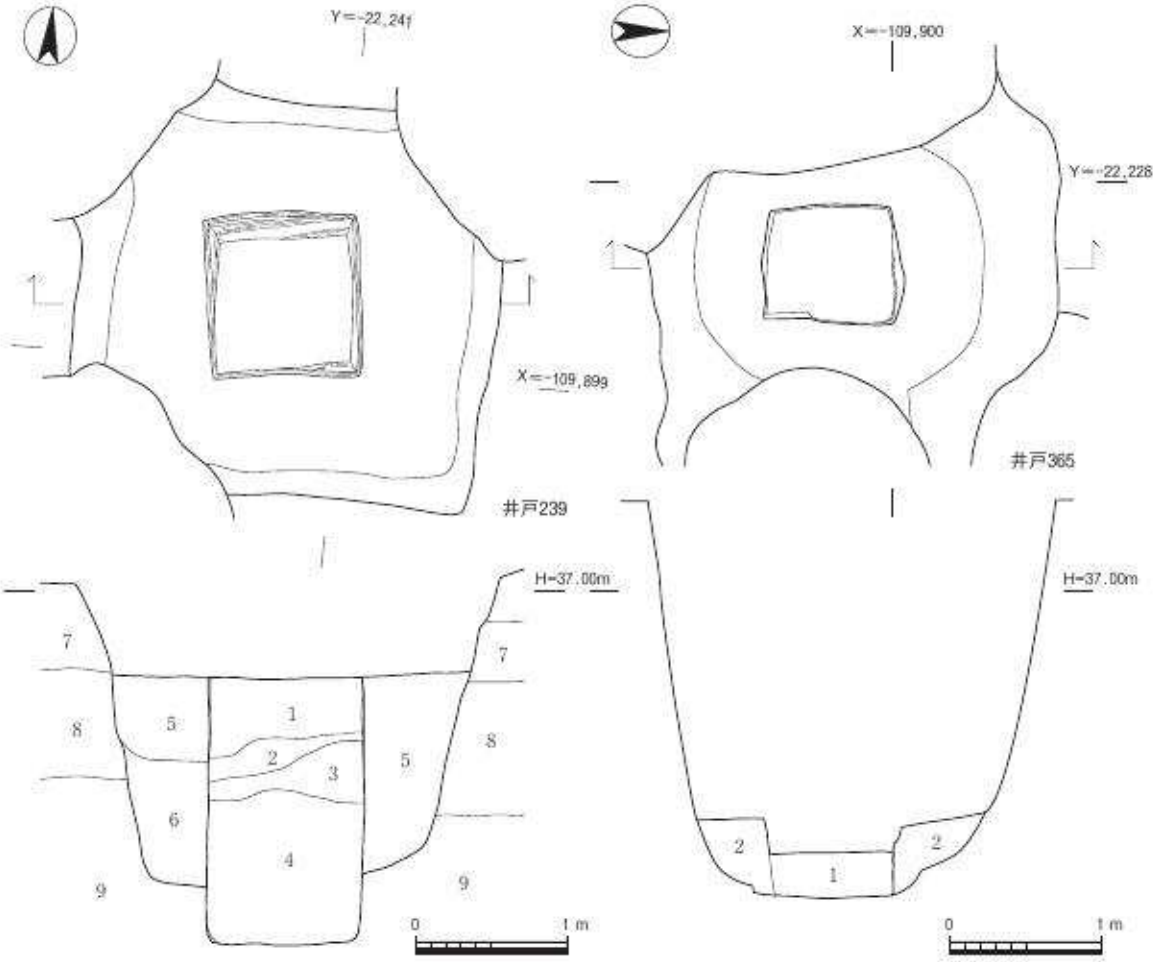


図19　第4面実測図（1/120）

明である。鎌倉時代の遺構と考えられる。

地下室160（図版５の１、図17） 調査区東壁際で検出した。東西2.7m以上、南北2.1mで方形を呈し、北・南・西側に布掘で根石が据えられた柱穴が並ぶ。柱穴は直径0.3～0.5mで0.2～0.3m大の石が据えられていた。柱間は0.4～0.6mの不揃えで、高さも高低差があり、作替があったものと考えられる。埋土から鎌倉時代後半の遺物が出土した。

地下室163（図版５の２、図18） 地下室160の北側で検出した。東西5.2m以上、南北2.7mで方形を呈し、深さは検出面から1.4mで、床面の一部に塼や平瓦が敷詰められていた。壁際は幅0.25m、深さ0.15mの溝が巡り、溝内に0.3～0.5m大の河原石と凝灰岩などが東西に３間、南北に２間で根石が据えられていた。掘形は0.2m幅でオリーブ褐色粘土が充填していた。埋土から



1　2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥、
　5Y4/3暗オリーブ褐色泥砂ブロック状に混じる・１～５cm礫混
2　2.5Y4/2暗灰黄色砂泥、炭・１～３cm礫中量混
3　2.5Y4/4オリーブ褐色砂泥、１～５cm礫中量混
4　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥、１～３cm礫中量混
5　2.5Y3/1黒褐色砂泥
6　2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫、２～５cm礫多量混
7　2.5Y5/4黄褐色シルト
8　2.5Y5/6黄褐色砂礫、３～20cm礫多量混　（地山）
9　2.5Y4/6オリーブ褐色砂礫、粗砂多量混

1　2.5Y3/2黒褐色砂泥
2　2.5Y4/1黄灰色砂泥

図20　井戸239・365実測図（1/50）

鎌倉時代後半の遺物が出土した。

溝166　調査区中央の南側で検出した。検出長は東西約8.0m、幅は0.7mで深さは0.35mの東西方向の溝である。西側は撹乱を受けて不明で東側はY=-22,227で止り、東には延びない。埋土から鎌倉時代後半の遺物が出土した。

土壙189　調査区北西より検出した。直径0.8mの円形で深さ0.3mである。埋土は黒褐色砂泥で室町時代前半の遺物が出土した。

第４面（平安時代中期から後期）（図版２の２、図19～22）

平安時代後期の遺構は井戸239・365・溝287、中期の遺構は柱穴列１・ピット289・300などである。

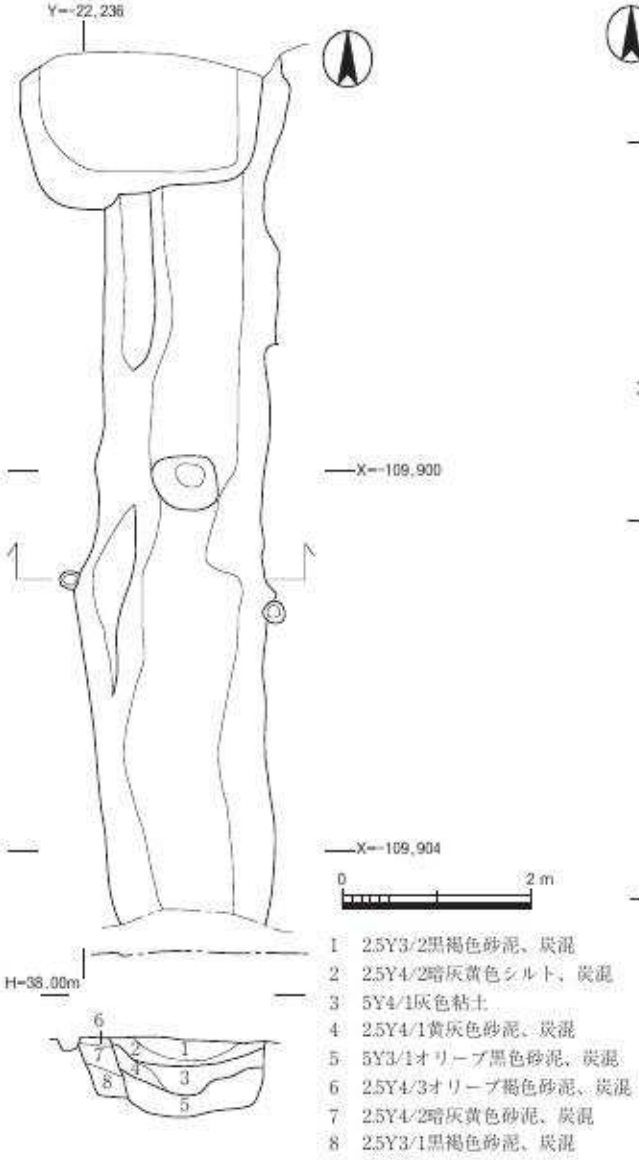


図21　溝287実測図（1/80）

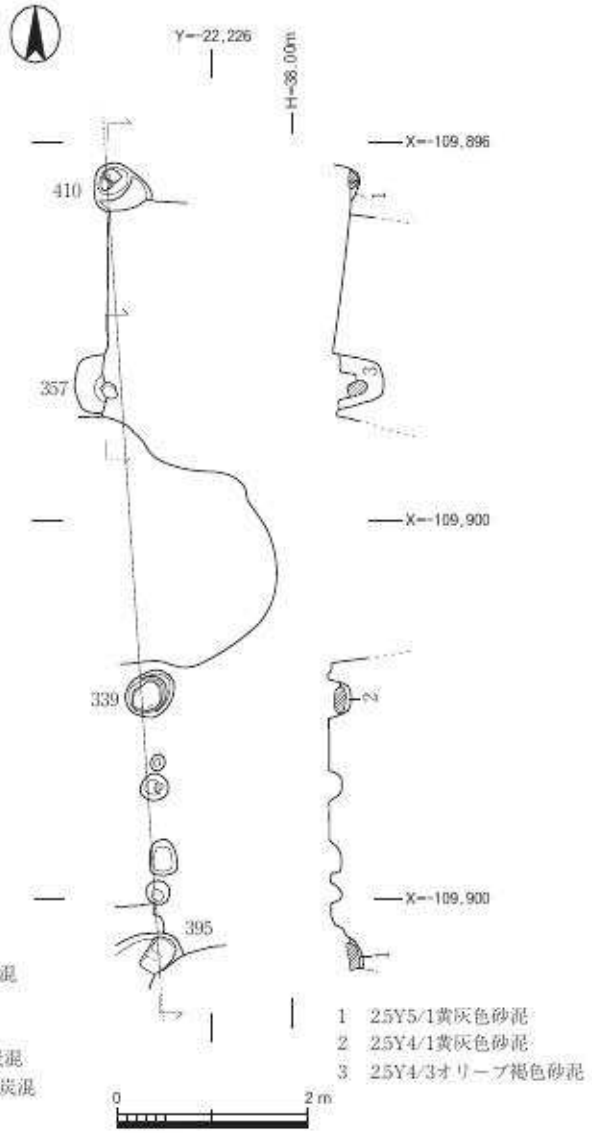


図22　柱穴列１実測図（1/80）

井戸239（図版６の１・３、図20） 調査区北西よりで検出した。掘形は約2.6mの方形を呈し、一辺1.1mの木枠組み井戸である。深さは検出面から2.5m（底標高34.7m）である。埋土から平安時代後期の遺物が出土した。

井戸365（図版６の２、図20） 調査区東よりで検出した。東と西側は撹乱を受けているが掘形は約2.7mの方形を呈し、一辺0.7mの木枠組み井戸である。深さは検出面から2.7m（底標高35m）である。埋土から平安時代後期の遺物が出土した。

溝287（図版６の４・６、図21） 調査区中央よりで検出した。検出長は南北9.3m、幅1.5～1.8m、深さは0.8～1.0mで北へ傾斜している。埋土は１層（１・２）、２層（３・４）、３層（５）、４層（６～８）に分かれ、溝が掘り返された痕跡が見られる。埋土からは平安時代後期の遺物が出土した。検出位置は条坊の区画からは外れている。

土壙380 調査区東壁際で検出した。北側は削平されていた。長軸1.2m、深さは検出面0.5mで不定形である。埋土は暗オリーブ褐色砂泥で平安時代後期の遺物が出土した。

柱穴列１（図版６の５、図22） 町尻小路西築地心より3.8m西で南北方向に検出した。柱穴が４基で直径が0.4～0.6mの円形で0.2～0.4m大の根石が据えられている。柱間は北から2.1m、3.2m、2.7mで不揃えである。柱穴339から平安時代中期の遺物が出土した。

ピット289 調査区中央の北壁際で検出した。直径0.4mの楕円形のピットである。埋土は黄灰色砂泥で緑釉陶器など平安時代中期の遺物が出土した。埋納遺構の可能性がある。

ピット300 調査区中央南より検出した。直径0.2mの円形のピットである。埋土は黒褐色砂泥で平安時代中期の遺物が出土した。

Ⅳ　遺　　物

出土遺物は、整理箱にして101箱である。時代は平安時代中期から江戸時代のものがあり、種類は土師器、瓦器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦、金属製品、石製品などである。多い順は室町時代、鎌倉時代、次に江戸時代、平安時代となる。なお、時代区分は京[註2]都の土器編年をもとにした。

土器・陶磁器類

土壙26出土土器（図版７、図23）　土師器皿Ｎｒ（１）、同皿Ｓ（２～６）、同焙烙鍋（７）、肥

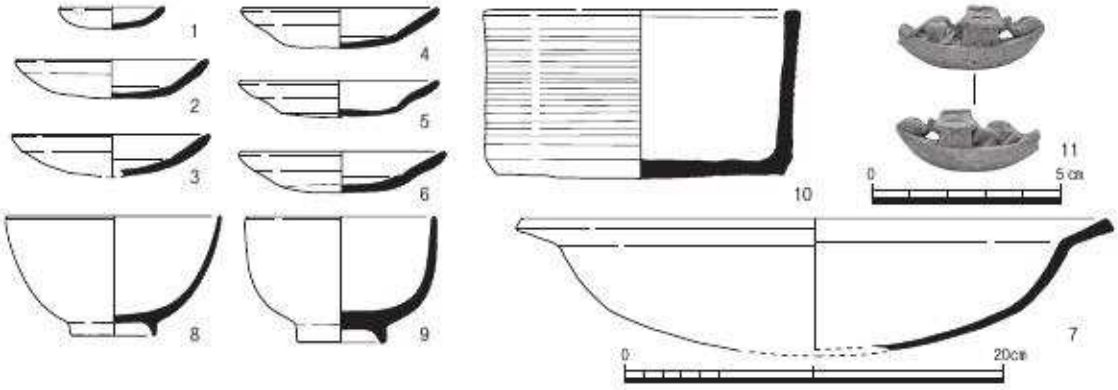


図23　土壙26出土土器写真・実測図（1/2・1/4）

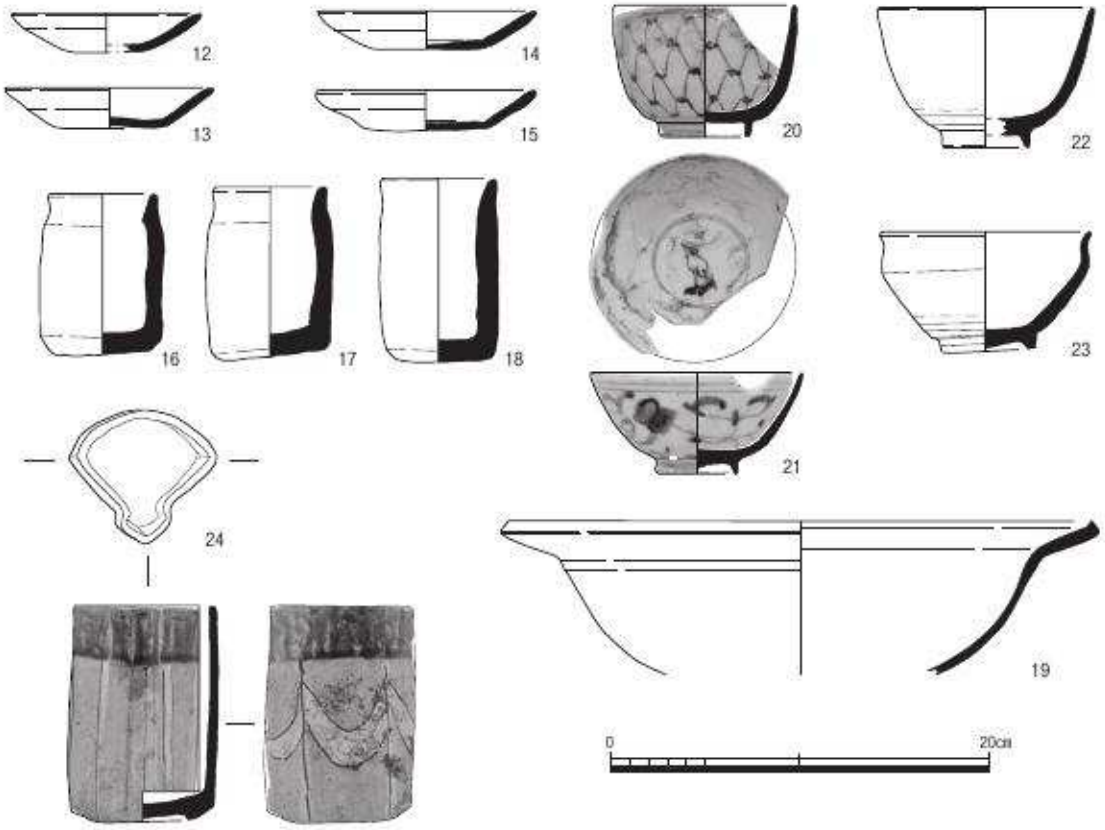


図24　土壙50出土土器実測図（1/4）

前白磁椀（8）、美濃椀（9）、丹波建水（10）、土製品の玩具「宝船」（11）などが出土した。京都XII期新頃に比定され、江戸時代中期と考えられる。

土壙50出土土器（図版7、図24）　土師器皿S（12～15）、同焼塩壺身（16～18）、同焙烙鍋（19）、肥前染付椀（20）、輸入染付椀（21）、美濃椀（22）、同天目茶碗（23）、織部扇形筒向付

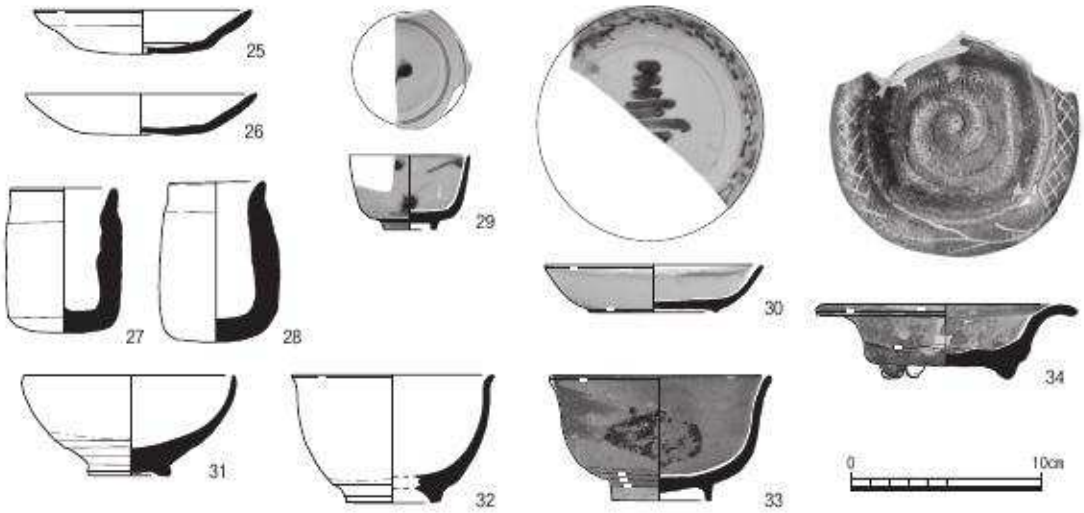


図25　井戸38出土土器実測図（1/4）

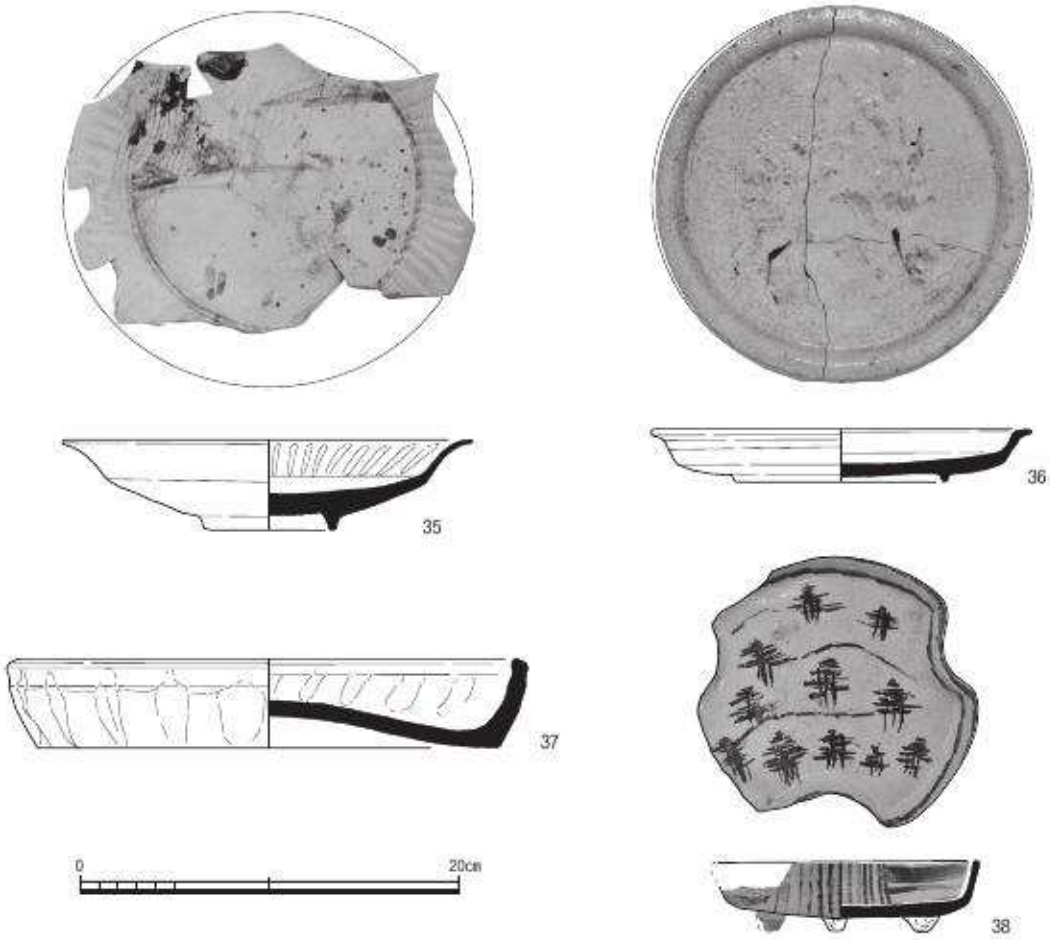


図26　石列3・土壙27出土土器実測図（1/4）

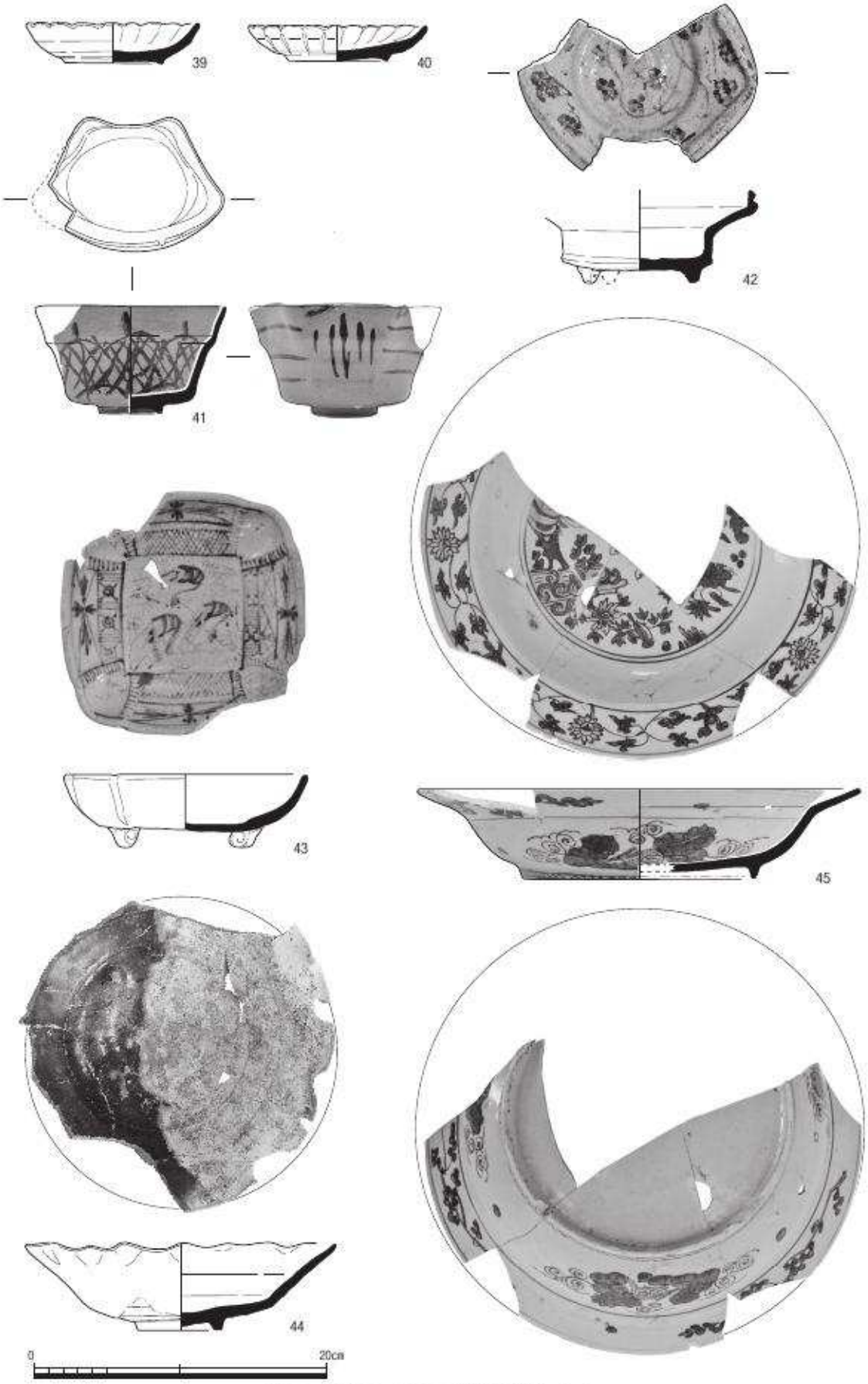


図27　土壙93・98出土土器実測図（1/4）

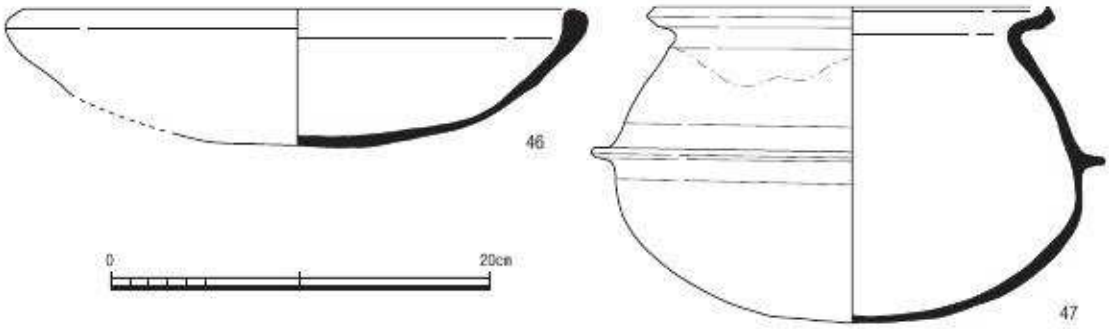


図28　土壙137出土土器実測図（1/4）

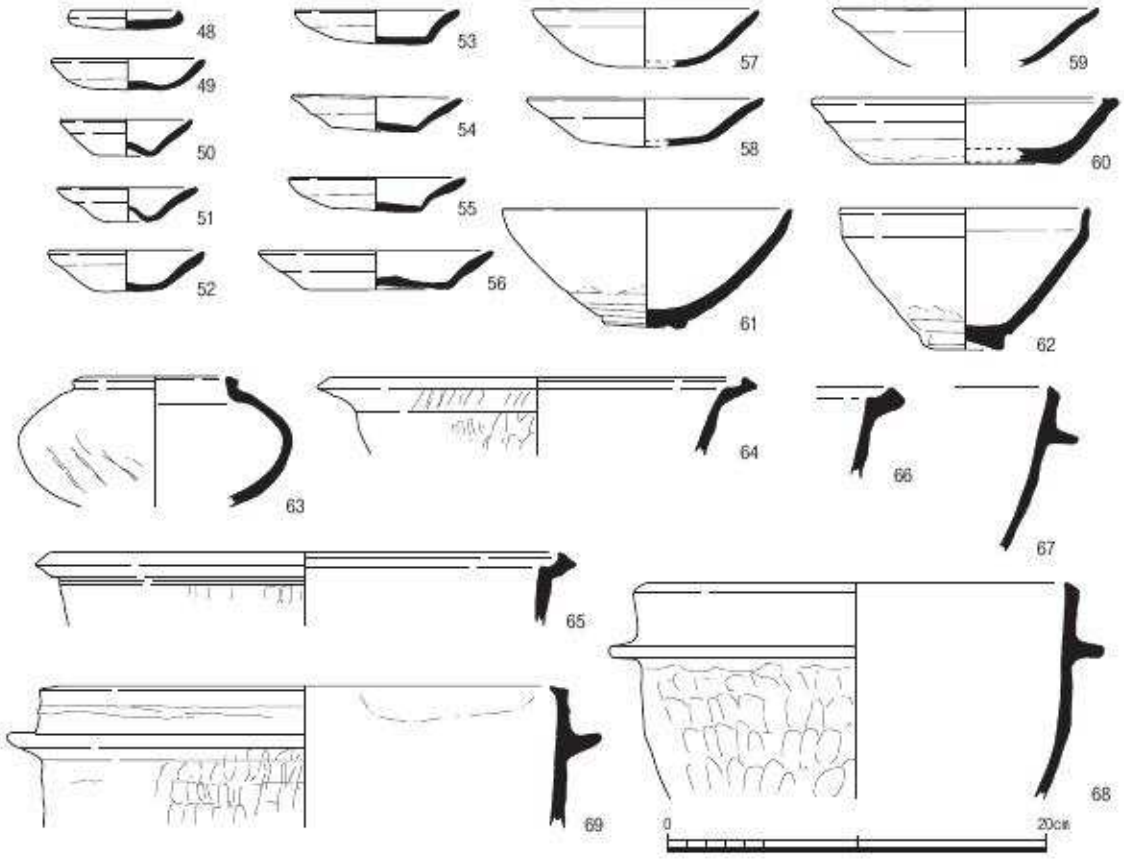


図29　土壙109出土土器実測図（1/4）

（24）などが出土した。京都XII期古頃で江戸時代前期後半の遺物である。

井戸38出土土器（図版７、図25）　土師器皿Ｓ（25・26）、同焼塩壷身（27・28）、肥前染付小杯（29）、輸入染付（30）、唐津椀（31・32）、美濃椀（33）、鼠志野向付（34）などが出土した。京都XI期中頃に比定され、江戸時代前期の遺物である。

石列３・土壙27（図版７・８、図26）　肥前染付皿（35）、志野皿（36）、丹波盤（37）は石列３出土。志野織部向付（38）は土壙27出土。京都XI期中前後で江戸時代前期の遺物である。

土壙93・98出土土器（図版８、図27）　志野輪花皿（39・40）、同向付（42）、同平鉢（43）、唐津向付（41）、筑前高取鉢（44）は土壙93出土。輸入染付皿（45）は土壙98出土。京都XI期中前

後で江戸時代前期の遺物である。

土壙137出土土器（図版８、図28）　土師器焙烙（46）、同羽釜（47）が出土した。京都XI期古で桃山時代と考えられる。

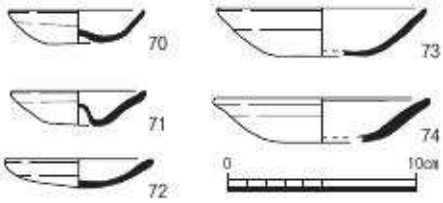


図30　石室135出土土器実測図（1/4）

土壙109出土土器（図版８・９、図29）　土師器皿Ａｃ（48・49）、同皿Ｓｈ（50～52）、同皿Ｎ（53～56）、同皿Ｓ（57～59）、瀬戸灰釉おろし皿（60）、同灰釉陶器　椀（61）、美濃天目茶碗（62）、瓦器壺（63）、同鍋（64～66）、同羽釜（67～69）などが出土した。京都IX期中～新に比定され、室町

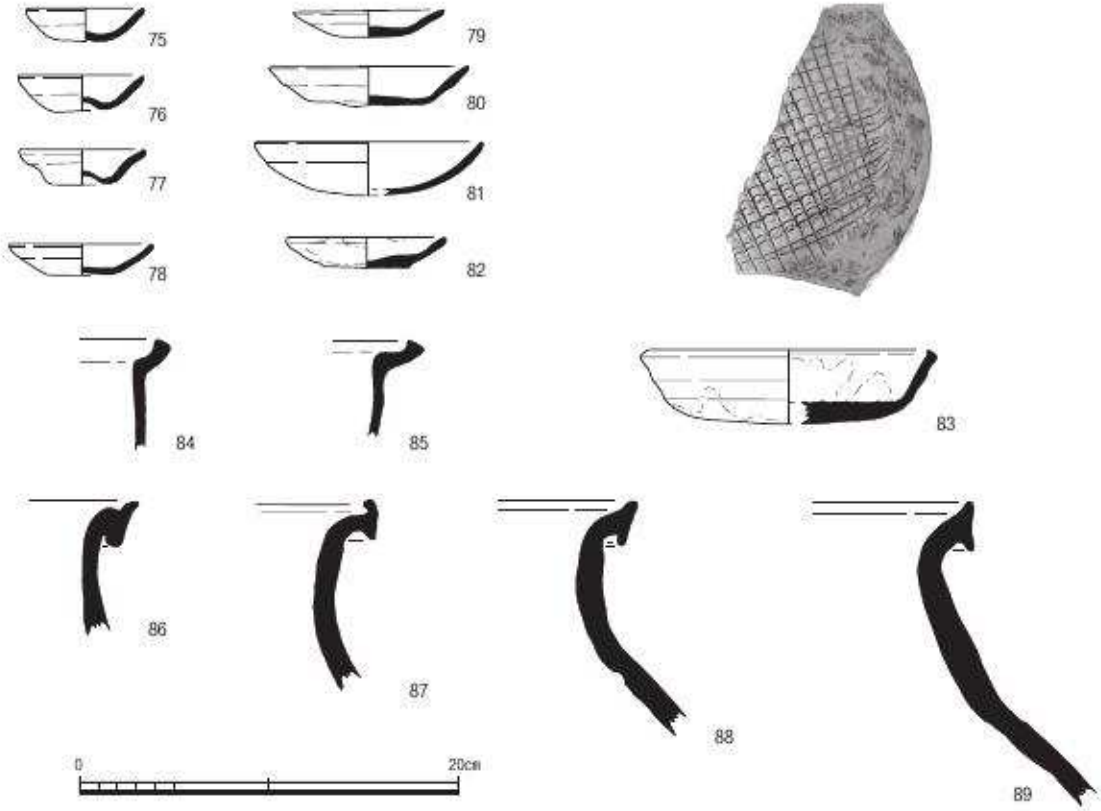


図31　地下室127出土土器実測図（1/4）

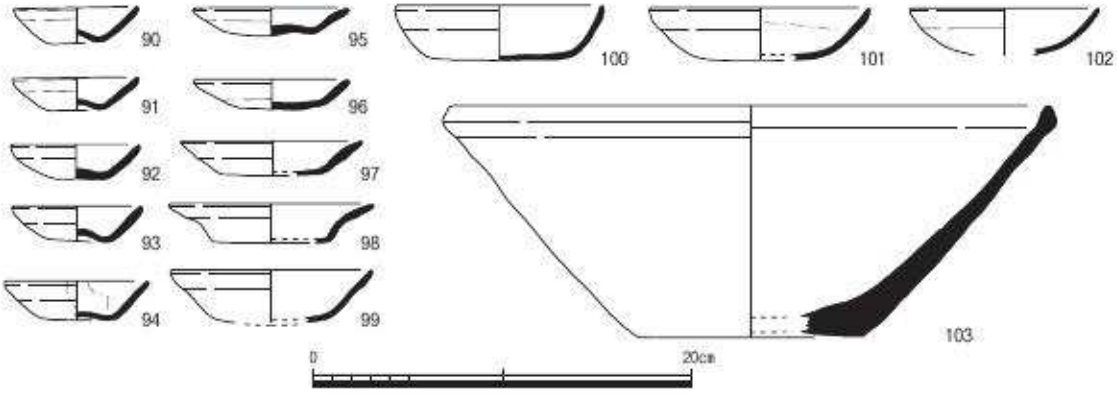


図32　地下室163出土土器実測図（1/4）

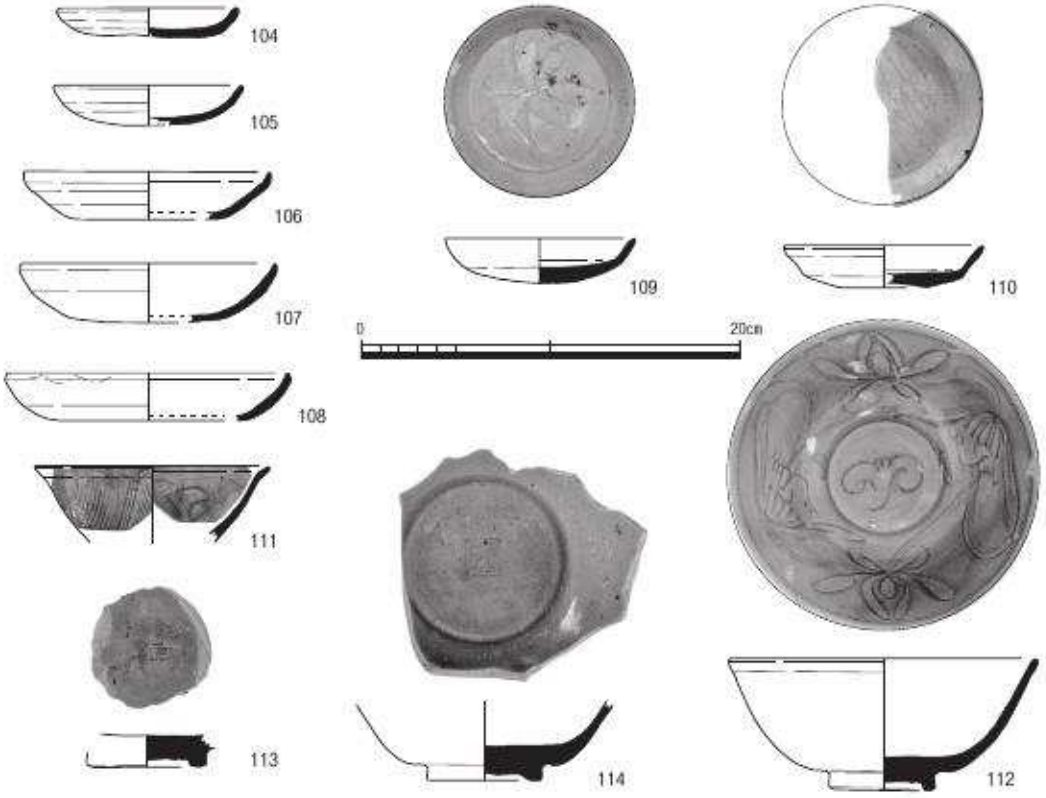


図33　第４面掘下げ出土土器実測図（1/4）

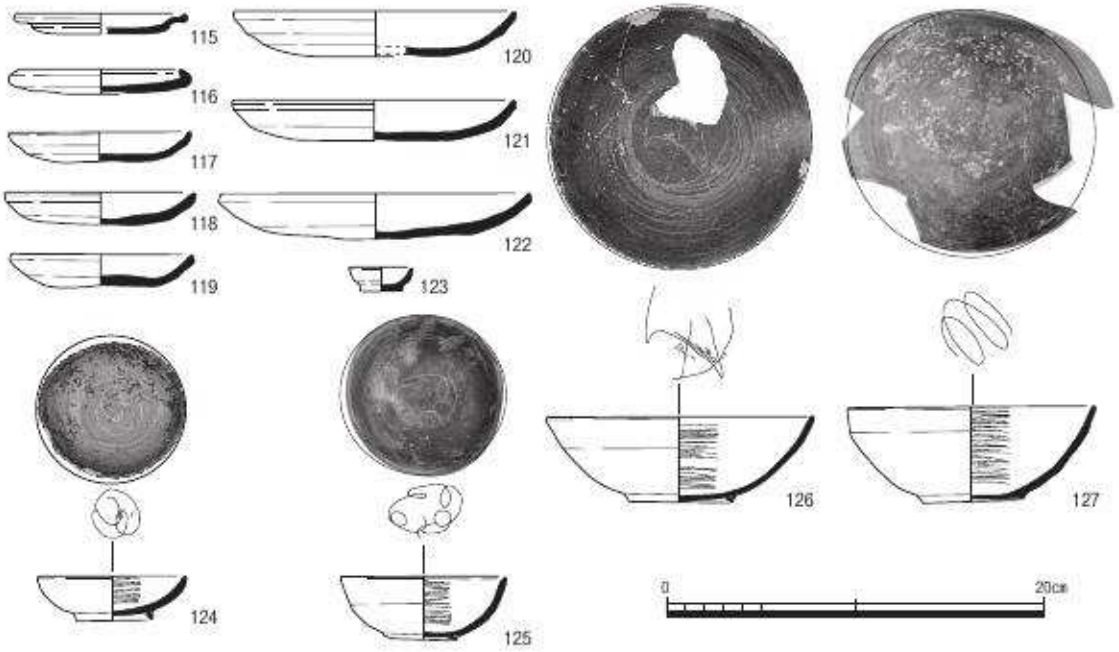


図34　溝287出土土器実測図（1/4）

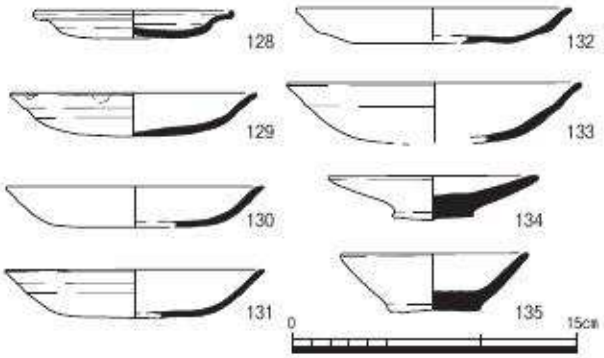


図35　土壙380出土土器実測図（1/4）

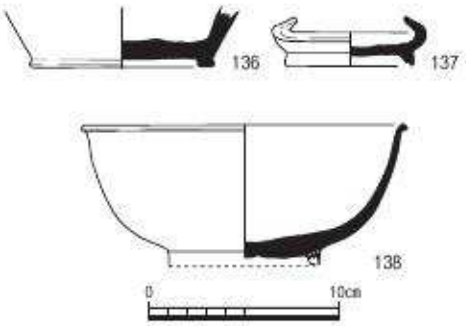


図36　第４面遺構検出・ピット289出土土器実測図（1/4）

時代中頃の応仁の乱の頃の遺物と考えられる。

石室135出土土器（図30）　土師器皿Ｓｈ（70・71）、同皿Ｎ（72～74）などが出土した。京都VIII期新の遺物と考えられる。

地下室127出土土器（図版９、図31）　土師器皿Ｓｈ（75～78）、同皿Ｎ（79･80）、同皿Ｓ（81）、須恵器の底部糸切り痕の皿（82）、瀬戸おろし皿（83）、瓦器鍋（84・85）、焼締陶器甕(86～89）などが出土した。甕の86～89は常滑編年の６～８型式に当る。京都VIII期中で室町時代前半と考えられる。

地下室163出土土器（図版９、図32）　土師器皿Ｓｈ（90～94）、同皿Ｎ（95～97）、同皿Ｓ（98～102）、須恵器鉢（103）などが出土した。京都VII期新で鎌倉時代後半と考えられる。

第４面掘下げ出土土器（図版９・10、図33）　土師器皿Ｎ（104～108）、輸入白磁皿（109）、同青磁皿（110）、同青磁椀（111・112）、見込みに文字印文の同青磁椀（113）は「金玉満堂」、同青磁椀（114）は「河濱遺範」などで輸入白磁・青磁は同安窯・龍泉窯系のものと考えられる。京都Ｖ期新～VI期中に比定され、平安時代末期から鎌倉時代前半の遺物と考えられる。

溝287出土土器（図版10、図34）　土師器皿Ａ（115）、同皿Ａｃ（116）、同皿Ｎ（117～122）、輸入白磁器形不明（123）、瓦器小椀（124）、同中椀（125）、同椀（126・127）などが出土した。京都Ｖ期中～新に比定され、平安時代後期の12世紀中頃の遺物と考えられる。

土壙380出土土器（図35）　土師器杯Ａ（128）、同皿Ｎ（129～133）、白色土器皿（134）、同椀（135）などが出土した。京都IV期中で平安時代後期の11世紀中頃と考えられる。

第４面遺構検出・ピット289出土土器（図版10、図36）　緑釉陶器壺（136）は第４面遺構検出。釉陶器耳皿（137）、同椀（138）はピット289出土。近江系の緑釉陶器でIII期古と考える。

瓦・塼類

軒 丸 瓦（図37）　瓦１は唐草文で第３面掘下げ出土。瓦２は三巴文で第４面精査中出土。

軒 平 瓦（図版11、図37）　瓦３は偏向波文で出土は２例目である。瓦４は均整唐草文で中心飾りは宝珠文。瓦５～８は均整唐草文で中心飾り三葉文。瓦８は他の軒平瓦よりやや大きい。瓦

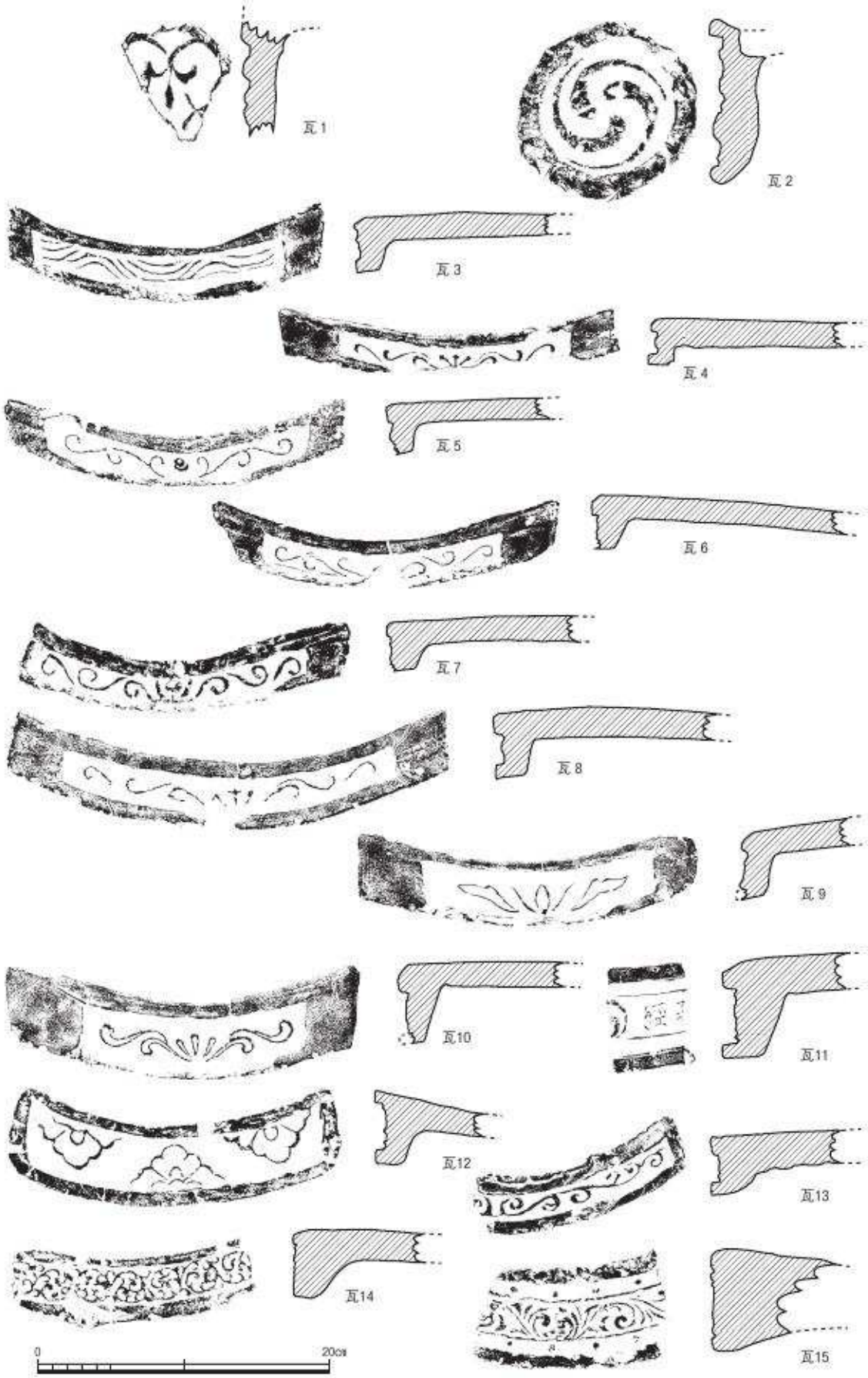


図37　軒瓦拓影・実測図（1/4）

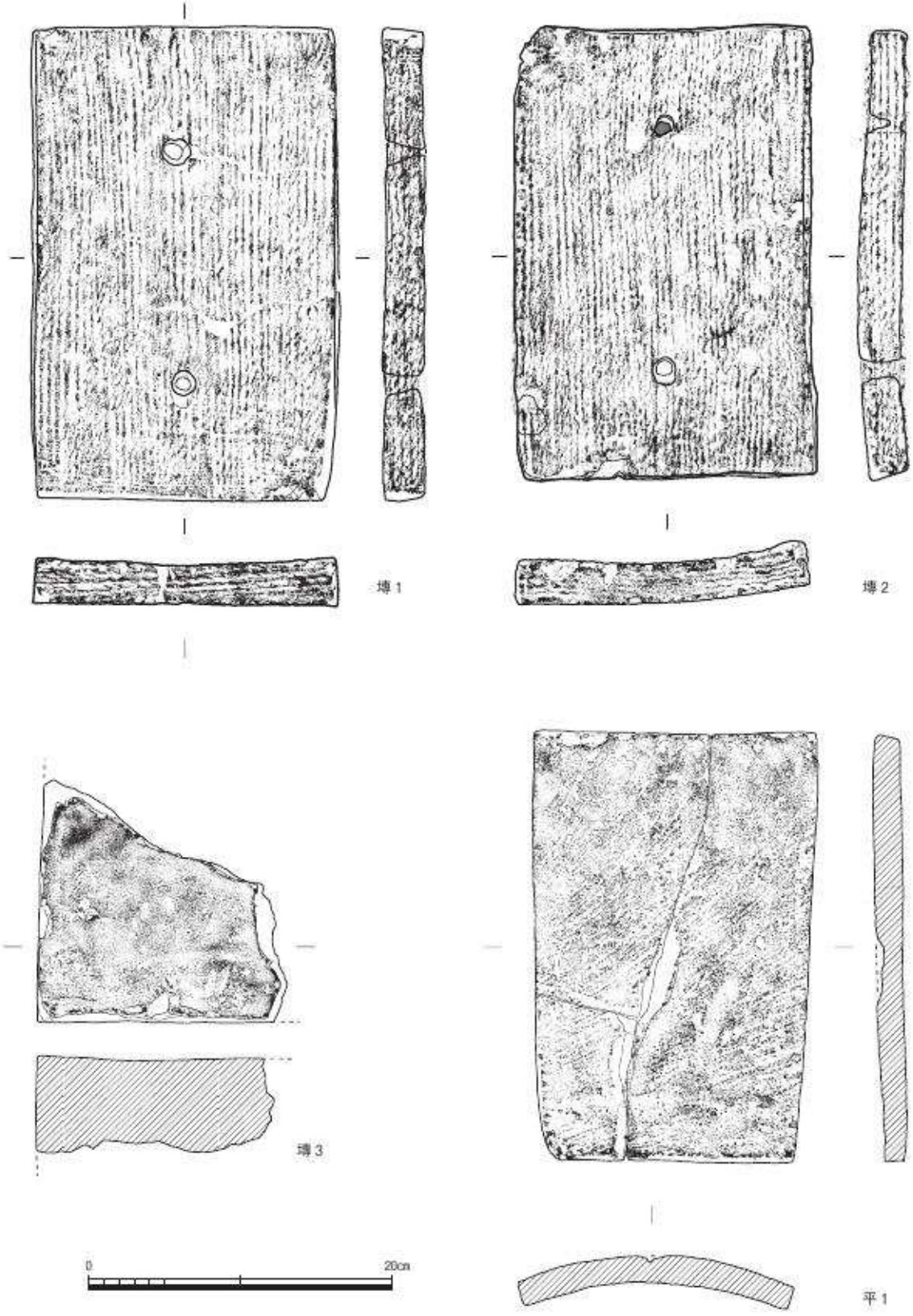


図38　塼・平瓦拓影・実測図（1/4）

9・10は均整凹型唐草文瓦で中心飾り三葉文。瓦３～８は聚楽第や大名屋敷跡から出土した金箔瓦と同じ文である。瓦３・７・８は金箔が残存する。瓦３～10は瓦組99出土。瓦11は「□経寺」銘の軒平瓦である。土壙109出土。瓦12は半裁花文である。第２面掘下げ出土。瓦13は均整唐草文である。石組130出土。瓦14は偏向唐草文である。土壙109出土。瓦15は均整唐草文である。第１面精査中出土。

塼・平瓦（図版12、図38）　塼１・２は縦29～31cm、横19～20cm、厚さ2.5～3cmで２カ所に孔が穿たれた有孔塼である。全面にタタキが施される。塼２には釘が残存していた。塼３は一辺

表２　銭貨一覧表

番号	銭貨名	初鋳年	時代	出土遺構名	遺構の年代
銭１	天聖元寶	1023	北宋	土壙38	江戸時代前期
銭２	至元通寶	1285	元	土壙38	江戸時代前期
銭３	開元通寶	960	南唐	土壙50	江戸時代前期後半
銭４	至元通寶	1285	元	土壙50	江戸時代前期後半
銭５	紹聖通寶	1094	北宋	土壙50	江戸時代前期後半
銭６	太平通寶	976	北宋	土壙50	江戸時代前期後半
銭７	皇宋通寶	1038	北宋	土壙50	江戸時代前期後半
銭８	皇宋通寶	1038	北宋	路面73	江戸時代前期
銭９	熙寧元寶	1068	北宋	路面73	江戸時代前期
銭10	皇宋通寶	1038	北宋	土壙109	室町時代中頃

番号	銭貨名	初鋳年	時代	出土遺構名	遺構の年代
銭11	皇宋通寶	1038	北宋	石室135	室町時代中頃
銭12	元豊通寶	1078	北宋	石室135	室町時代中頃
銭13	開元通寶	960	南唐	石室135	室町時代中頃
銭14	元豊通寶	1078	北宋	石室135	室町時代中頃
銭15	政和元寶	1111	北宋	石室135	室町時代中頃
銭16	卓元大寶	958	平安	地下室160	鎌倉時代後半
銭17	開元通寶	960	南唐	地下室163	鎌倉時代後半
銭18	淳化元寶	990	北宋	地下室163	鎌倉時代後半
銭19	元祐通寶	1086	北宋	地下室163	鎌倉時代後半
銭20	乾元大寶	958	平安	溝287	平安時代後期

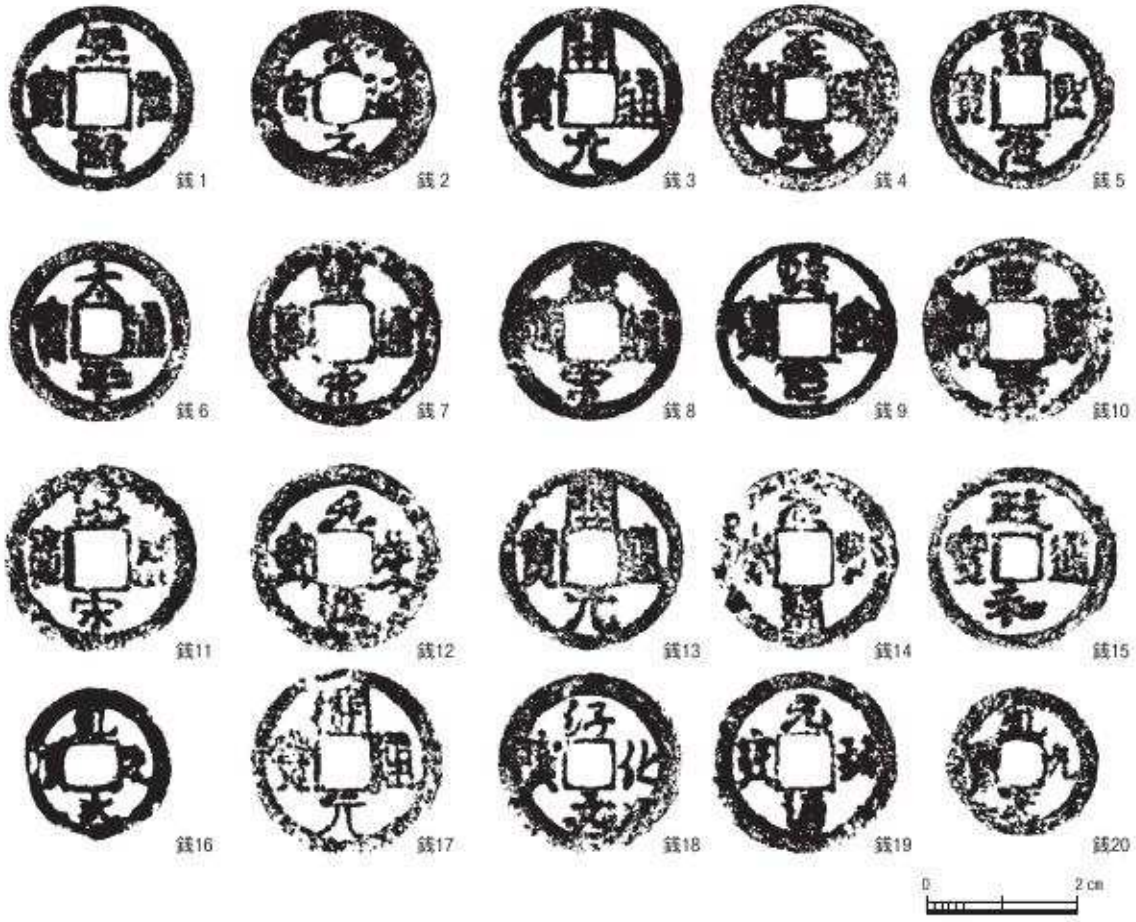


図39　銭貨拓影図（1/1）

15cm以上、厚さ6cm以上の方形と推定される。表面はヘラで調整されている。平安時代前期のものである。平瓦1は縦19cm、横18cm、厚さ1.7cmで表面は糸切り痕が残る。塼1・2・平瓦1は地下室163の床面に敷かれていたものである。

銭貨・石製品

銭　貨（図39、表2）　銭貨は遺構・層から138枚出土した。主要遺構で判読できたのが以下である。天聖元寳、至元通寳、開元通寳、紹聖通寳、太平通寳、皇宗通寳、熙寧元寳、元豊通寳、政和元寳、乾元大寳、淳化元寳などである。

石 製 品（図版12、図40）　石1・2は砥石で石1には表・裏に使用された窪みがある。路面73出土。石3は薬研車で直径は約17cmで円盤状を呈する。石室130出土。石4は珪質頁岩の硯で表・裏に千鳥が線刻されている。溝166出土。石5は珪質頁岩の硯。地下室163出土。

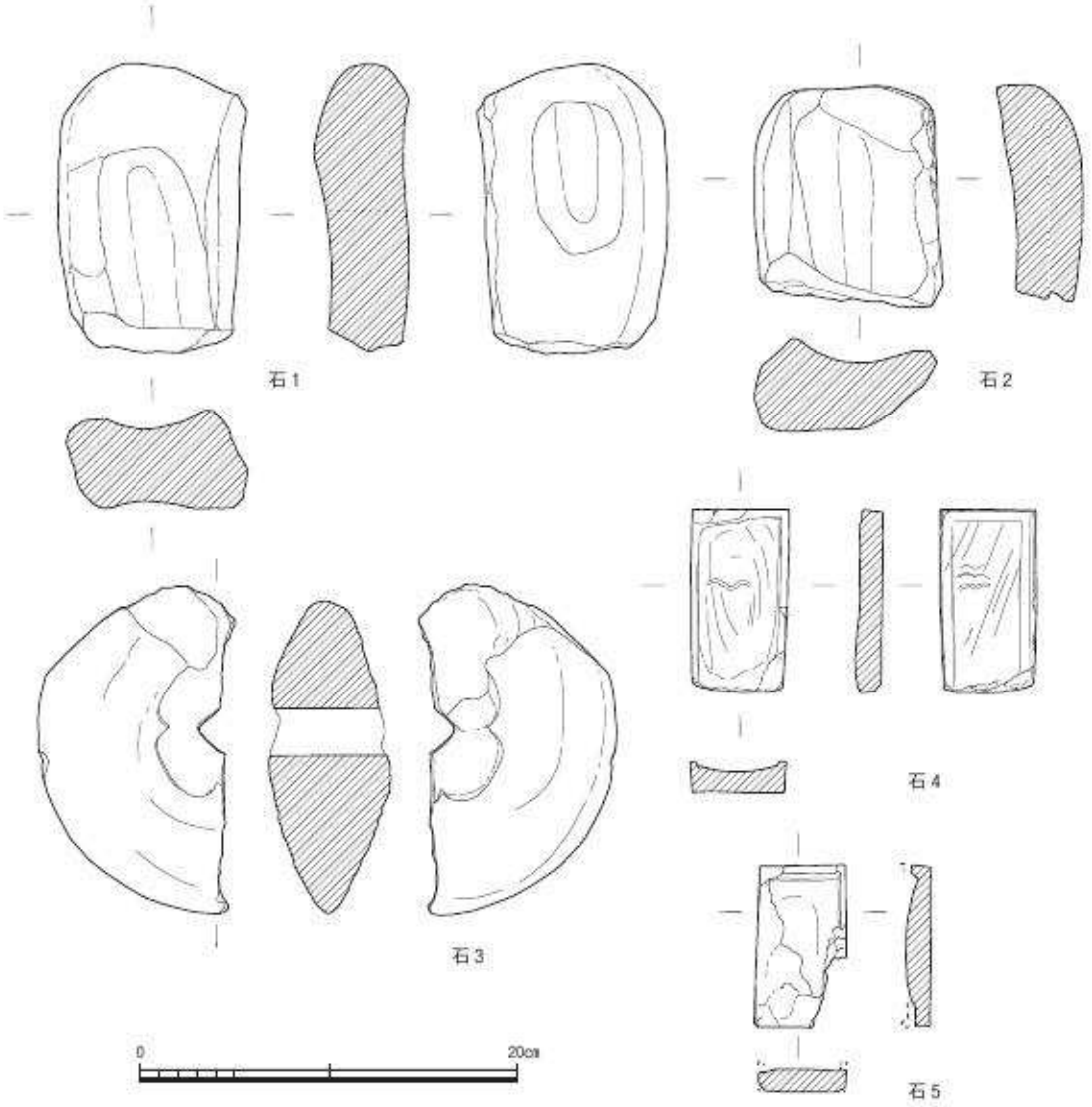


図40　石製品実測図（1/4）

表３　遺物概要表

時　　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
江戸時代	土師器、国産陶磁器、輸入磁器、焼締陶器、軒瓦、瓦、銭貨、金属製品、石製品、土製品		土師器12点、土師製品７点、国産陶磁器21点、輸入陶磁器４点、軒瓦８点、土製品１点、石製品２点、銭貨10点		
室町時代～桃山時代	土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器、焼締陶器、瓦器、軒瓦、瓦、銭貨、石製品、金属製品		土師器24点、土師製品２点、国産陶磁器９点、瓦器９点、軒瓦１点、銭貨５点、石製品２点		
鎌倉時代～室町時代前半	土師器、輸入陶磁器、焼締陶器、須恵器、瓦器、軒瓦、瓦、銭貨、石製品		土師器18点、須恵器１点、輸入磁器６点、軒瓦２点、磚２点、平瓦１点、銭貨４点、石製品１点		
平安時代	土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入磁器、須恵器、瓦器、軒瓦、瓦、銭貨		土師器14点、白色土器２点、瓦器４点、輸入磁器１点、緑釉陶器３点、軒瓦４点、磚１点、銭貨１点		
合　　計		117箱	182点（14箱）	103箱	０箱

V. ま と め

今回の調査目的の一つである新町通から西洞院通への傾斜が、いつ頃から形成されたのかを本調査地と図41の周辺の既[注6]調査資料から明らかにしたい。

新町通と西洞院通との姉小路は高低差は2.3m、三条通は2.8m、六角通は3.4mあり、また室町通よりも0.2～1.4m程高い位置に新町通は立地している。表４は各調査地の現表土、調査で検出された地山面（自然堆積層）の標高と盛土の厚さである。新町通より東側の①・②・⑤・⑥では現表土39.8～40.6m、地山面は37.5～38.1mで、①から傾斜して行く。西洞院通の⑦・⑧では現表土は35.7～36m、地山面は34.3～35mである。高低差は現表土が4.3～4.6m、地山面3.1～3.8mで自然地形の差より人為的に高く積まれている。その中で室町通側の⑥→⑤→②・③→①と新町通側へ向かって盛土が高くなっている。盛土（整地層）が厚くなったのが、平安時代末期～鎌倉時代からであることが①・②・③・⑤の土層から窺える。町尻小路（新町通）が商業地として発展過程の現れと考えられる。

検出遺構は、平安時代前期の遺構は東隣りの三[注7]坊五町・三坊八町は検出されているが、本調査地では検出されていない。中期になると柱穴列やピット、柱穴などが町尻小路側で検出されたのみで調査区全体には広がらない。後期には井戸・ピット・土壙・溝などと遺物量も増えているが、溝287の東側に集中している。東側は平坦で西側は傾斜面であることから平安時代には宅地として利用されていない可能性がある。鎌倉時代には町尻小路に面してた地下室・井戸・土壙・溝。室町時代でも地下室・石室・石組の遺構などを検出した。中世には地下式貯蔵施設が町尻小路側に継続して造られている。これは、図[注8]41の調[注9]査でも鎌倉時代中頃から室町時代に地下施設が通り沿いに検出されている。これが中世の町尻小路沿いの遺構の特徴であり、商業地であることを示す証拠でもある。しかし、江戸時代前期で全く様相が変わり、路面・石組溝・瓦組の遺構などを検出した。路面の一部が、石畳状に敷かれ、路面脇には小さな建物が想定される石列や金箔瓦を使った貯水施設などから露地として使われたと考えられる。また、③調査でも路地遺構と池跡が検出されている。中期以降は通り側に石室、西側に蔵などがあり、商家の遺構配置となる。

出土遺物は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、出土遺物の量が増える。最も多いのが室町時代、鎌倉時代で、全体の約７割を占める。これは遺構数や土層の厚さが反映している。次が江戸時代、平安時代となる。内容では鎌倉時代、室町時代の輸入磁器の龍泉窯・同安窯青磁や白磁が目立つ。さらに江戸時代前期には志野・美濃・織部・唐津・高取・丹波・輸入染付などいわゆる桃山陶器の器が出土した。住人の階層性を示すものと考えられる。

表４　調査地の現表土・地山の標高値一覧表

地点	現表土	地山面	盛土厚
①	東40.2m 西40.6m	東37.5m 西36.7m	東2.7m 西3.9m
②	40.4m	37.8m	2.4m
③	39.1m	36.8m	2.3m
⑤	40.2m	37.8m	2.4m
⑥	39.8m	38.1m	1.7m
⑦	36.0m	35.0m	1.0m
⑧	35.7m	34.3m	1.4m

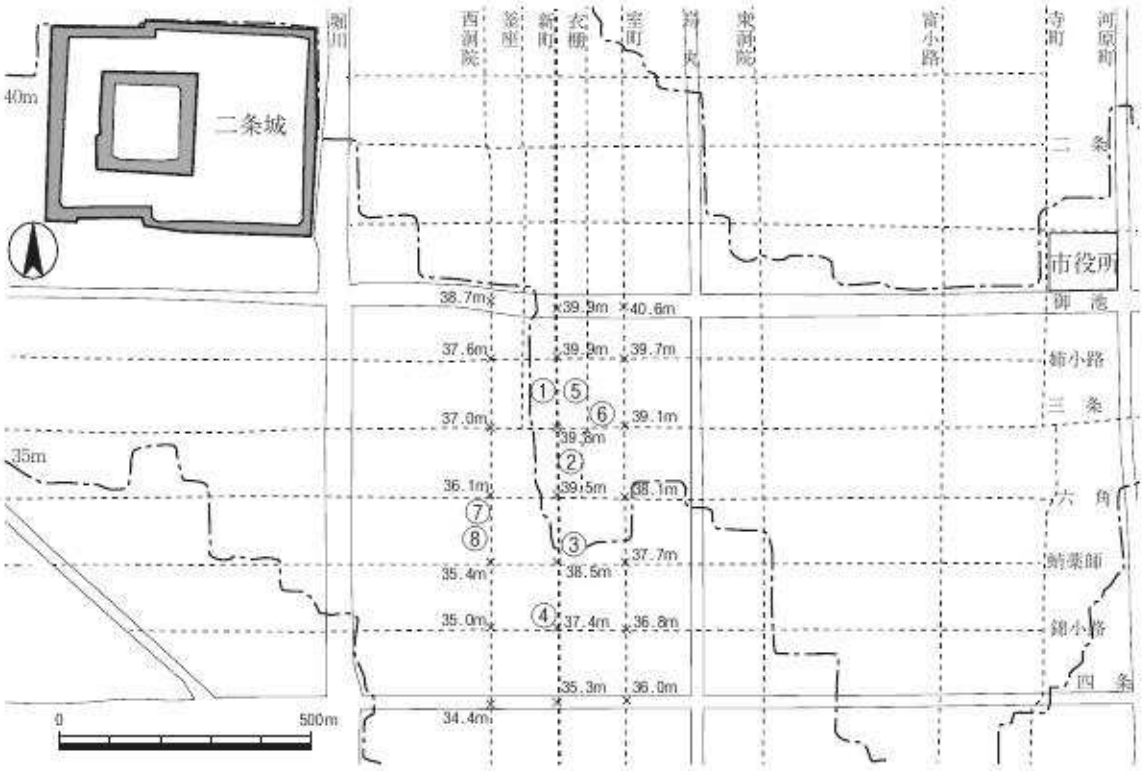


図41　等高線と既調査地点図（1/15,000）

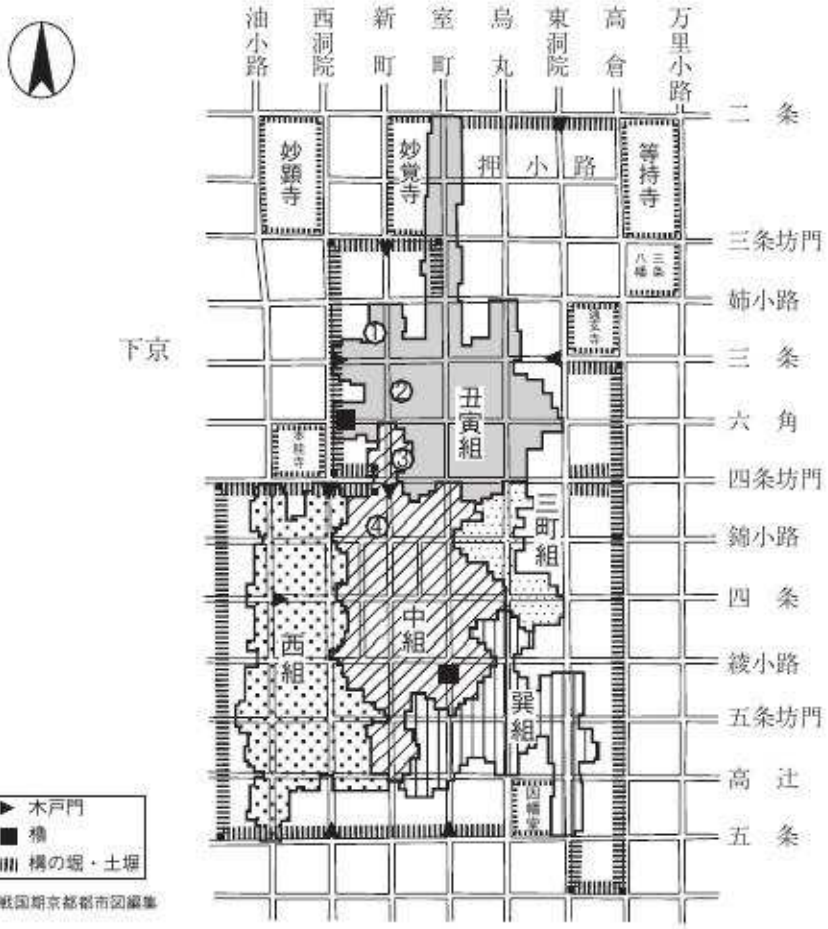


図42　戦国期の下京と既調査地点図

今回の調査成果から四町と新町通の平安時代中期から江戸時代における土地利用の変遷と遺構の特徴を一部ではあるが明らかにすることができた。

註１　角田文衛総監修『平安京提要』角川文庫　1984年。

註２　小森俊寛監修・著作『京から出土する土器の編年的研究―日本律令的土器様式の成立と展開、７～19世紀―』（有）京都編集工房　2005年。

註３　中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』2004年。

註４　上村憲章『平安京左京北辺三坊六町・内膳町遺跡』古代文化調査会　2014年。

註５　財団法人京都埋蔵文化財研究所「平安京左京北辺四坊―第２分冊（公家町）―」『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊』2004年。

註６　②調査　東洋一・伊藤潔「平安京左京四条三坊八町・烏丸御池遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-2』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2013年、③調査　吉川義彦「平安京左京四条三坊七町・姥柳町遺跡（南蛮寺跡）」『平安京発掘調査報告』関西文化財調査会　2014年、④調査　小森俊寛「平安京左京四条三坊三町の説明会資料」有限会社京都平安文化財　2017年、⑤調査　辻裕司「18　平安京左京三条三坊五町」『昭和55年京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年、⑥調査　上村憲章『平安京左京三条三坊五町・烏丸御池遺跡』古代文化調査会　2011年、⑦調査　家崎孝治『本能寺城跡―平安京左京四条二坊十五町―』古代文化調査会　2012年。

註７　註６の⑤調査は平安時代前期の掘立柱建物。②調査は前期の土壙などが検出されている。

註８　高橋康夫『京都中世都市史研究』思文閣出版　1983年。

註９　註６の②、③、④調査。

報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょうさんじょうさんぼうよんちょう・からすまおいけいせき
書　　名	平安京左京三条三坊四町・烏丸御池遺跡
副 書 名	町頭町の調査
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小松武彦
編集機関	古代文化調査会
所 在 地	〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中１丁目４番地125-1404
発行年月日	西暦2018年３月31日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京三条三坊四町・烏丸御池遺跡（へいあんきょうさきょうさんじょうさんぼうよんちょう・からすまおいけいせき）	京都市中京区（きょうとしなかぎょうく）町頭町（まちかしらちょう）101-1、101-2、105	26100	1 464	35度 0分 33秒	135度 45分 23秒	2017年８月1日～2017年10月20日	338㎡	ホテル新築工事

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京三条三坊四町・烏丸御池遺跡	都城跡 集落跡	平安時代中期～後期	柱穴列、溝、井戸、土壙、ピット、柱穴	土師器、須恵器、国産陶器、輸入陶磁、軒瓦、瓦、銭貨	
		平安時代末期～鎌倉時代	地下室、溝、土壙、ピット	土師器、国産陶磁器、輸入磁器、焼締陶器、軒瓦、瓦、銭貨	
		室町時代～桃山時代	地下室、石組、井戸、土壙、柱穴	土師器、国産陶磁器、輸入磁器、軒瓦、銭貨、金属製品、石製品、瓦	
		江戸時代前期～後期	石室、路面、溝、柱穴、石列、井戸、土壙	土師器、国産陶磁器、焼締陶器、金箔瓦、瓦、軒瓦、銭貨、石製品、金属製品、銭貨	

図　　版

1　第１面全景（北西から）

2　第２面全景（北西から）

1　第３面全景（北西から）

2　第４面全景（北西から）

1　石列１・路面73・溝77（西から）

2　瓦組99（西から）

1　地下室127（南東から）

2　石組128（西から）

3　地下室127束石（東から）

4　石組130（西から）

5　石室135（北から）

1　地下室160（東から）

2　地下室163（北から）

1　井戸239（南から）

2　井戸365（東から）

3　井戸239断面（南から）

4　溝287南壁断面（北から）

5　柱穴列１（北から）

6　溝287（北から）

土壙26（4・6・10・11）・土壙50（16～18・24）・井戸38（27・28・33・34）・石列3（35～37）

38

39

40

41

42

43

44

45

47

48

49

51

土壙27（38）・土壙93（39～44）・土壙98（45）・土壙137（47）・土壙109（48・49・51）

55

61

62

75

76

80

83

90

94

95

104

109

土壙109（55・61・62）・地下室127（75・76・80・83）・地下室163（90・94・95）・
第4面掘下げ（104・109）

112

117

121

123

124

125

126

127

135

136

137

138

第４面掘下げ（112）・溝287（117・121・123～127）・土壙380（135）・第４面遺構検出（136）・ピット289（137・138）

瓦3

瓦5

瓦6

瓦7

瓦8

瓦9

瓦10

瓦11

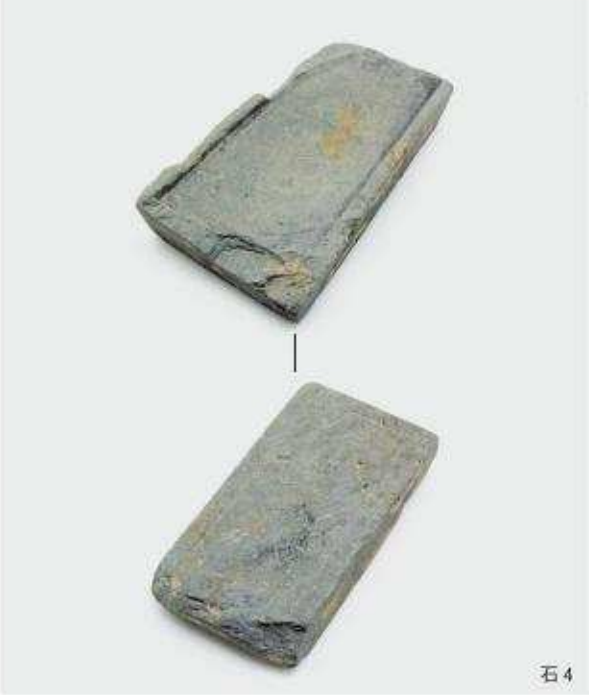
瓦12

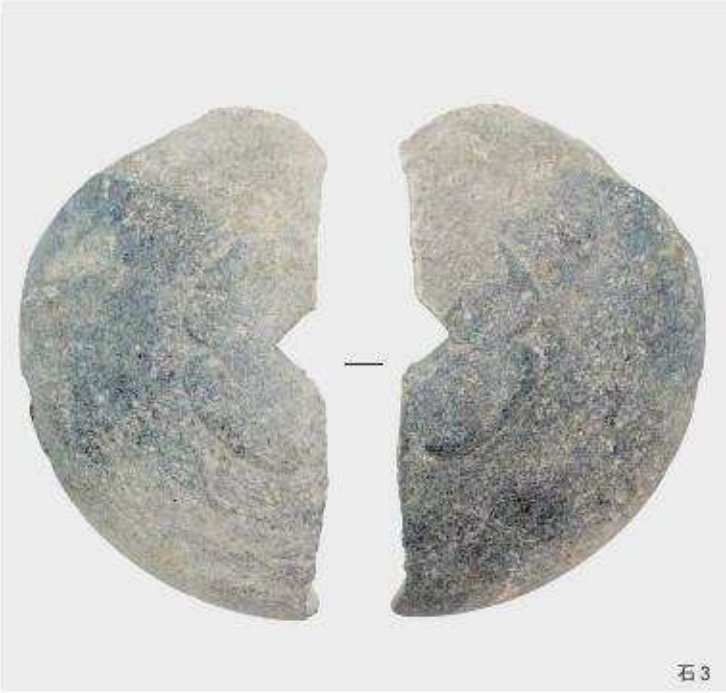
瓦13

瓦14

瓦15

瓦組99（瓦3・5～10）・土壙109（瓦11・14）・第2面掘下げ（瓦12）・石組130（瓦13）・
第1面精査中（瓦15）





地下室163（塼1～3）・路面73（石1・2）・石室130（石3）・溝166（石4）・地下室163（石5）

平安京左京三条三坊四町
烏丸御池遺跡

—町頭町の調査—

発行日　2018年3月31日
編集
発行　古代文化調査会
住所　〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
TEL　(078)857-6368
印刷　真陽社
〒600-8475　京都市下京区油小路仏光寺上ル
TEL　(075)351-6034